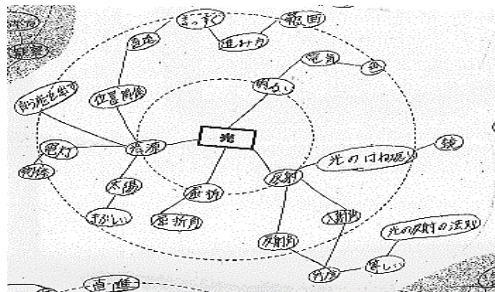
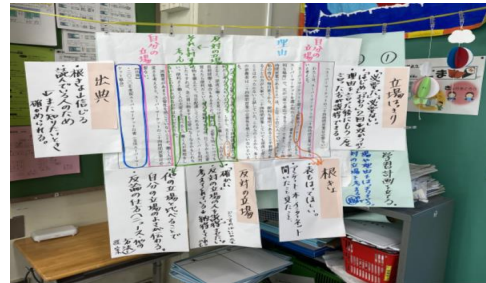


「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業実践集 ー授業をデザインする8つの取組ー



2021年 4月 町田市教育委員会 指導課

目次

1	目指す資質・能力と「主体的・対話的で深い学び」について	1
2	「授業実践集」及び「町田市スタンダード授業改善シート」の活用について	2
3	授業実践事例【小学校】	
(1)	国語科【第2学年 ICT機器の活用・構造的な板書・発問の工夫】	8
(2)	国語科【第5学年 見通しをもたせる導入・発問の工夫】	10
(3)	社会科【第4学年 思考ツールの活用】	12
(4)	算数科【第1学年 見通しをもたせる導入・ICT機器の活用】	14
(5)	算数科【第4学年 ICT機器の活用】	16
(6)	理科【第3学年 見通しをもたせる導入・振り返りの設定】	18
(7)	外国語科【第6学年 ICT機器の活用・価値ある対話の共有】	20
4	授業実践事例【中学校】	
(1)	国語科【第3学年 見通しをもたせる導入・構造的な板書とノート指導・振り返りの設定】	22
(2)	社会科【第2学年 見通しをもたせる導入・ICT機器の活用】	24
(3)	数学科【第2学年 ICT機器の活用・構造的な板書とノート指導】	26
(4)	理科【第1学年 見通しをもたせる導入・発問の工夫・思考ツールの活用・振り返りの設定】	28
(5)	理科【第3学年 価値ある対話の共有・振り返りの設定】	30
5	指導教諭の授業実践事例【小学校】	
(1)	図画工作科【第6学年 ICT機器の活用・価値ある対話の共有】	32
(2)	外国語活動【第4学年 見通しをもたせる導入・ICT機器の活用・振り返りの設定】	34
(3)	外国語科【第6学年 価値ある対話の共有】	36
(4)	特別の教科 道徳【第5学年 見通しをもたせる導入・ICT機器の活用】	38
6	指導教諭の授業実践事例【中学校】	
(1)	社会科【第3学年 見通しをもたせる導入・価値ある対話の共有】	40
(2)	美術科【第1学年 ICT機器の活用】	42
(3)	外国語科【第1学年 見通しをもたせる導入・思考ツールの活用】	44

本授業実践集の活用にあたって

本実践事例集は、町田市学力向上推進プラン（第3次）に基づき、市内公立小・中学校に配布し、授業改善を図ることを目的として作成しました。

授業づくりの参考となる授業をデザインする8つの取組と関連した小・中学校別の実践事例を掲載しております。

また、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を推進していくために、学校の傾向及び個人の成果と課題を把握することのできる「町田市スタンダード授業改善シート」を作成しました。日々の授業実践、校内研修及び校内研究等で積極的に活用し、組織的な授業改善を図っていただきますようお願いいたします。

1 目指す資質・能力と「主体的・対話的で深い学び」について

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

「深い学び」の視点から学習内容の深い理解や動機付けにつなげたり、「主体的な学び」の視点から学びへの興味や関心を引き出したりすることが重要です。以下のポイントを踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進していきます。

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【対話的な学び】

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【深い学び】

「**見方・考え方**」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

授業をデザインする8つの取組

- | | | |
|-------------|-----------------|---------------|
| ○見通しをもたせる導入 | ○発問の工夫 | ○価値ある対話の共有 |
| ○ICT機器の活用 | ○思考ツールの活用 | ○構造的な板書とノート指導 |
| ○振り返りの設定 | ○認め合う・学び合う集団の形成 | |

主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業実践

2 「授業実践集」及び「町田市スタンダード授業改善シート」の活用について

(1) 授業をデザインする8つの取組～課題の設定～

【今後の授業を実施する上での課題】

- 学習の重点化を図る上で、授業において単元・授業の導入をどのように工夫したらよいか
- 授業における学習でより学びを深めるために、ICT機器をどのように活用したらよいか
- 家庭学習につなぐために、どのように学習の振り返りを設定したらよいか

授業をデザインする8つの取組の中から視点を焦点化し、授業実践に取り組むことにしました。



認め合う・学び合う集団の形成

- ☐ 児童・生徒が互いに、認め合ったり、称賛し合ったりできるようにしている。
- ☐ 児童・生徒が粘り強く課題に取り組めるように、受容・称賛・励ましの言葉を掛け合っている。
- ☐ 教室掲示等、学習環境を整備している。

見通しをもたせる導入

- ☐ 児童・生徒に、何を学ぶか、どのように学ぶのか、見通しをもたせている。
- ☐ 学習の流れやめあてを提示している。
- ☐ 児童・生徒の興味・関心を高めている。
- ☐ ICT機器を活用し、課題の提示を工夫している。



発問の工夫

- ☐ 知的好奇心をかき立てる発問をしている。
- ☐ 考えを引き出すように発問している。
- ☐ 「なぜだろう」「どうしてだろう」と児童・生徒が課題を追究している。
- ☐ 教師が思考に働きかけるような発問や、本時のねらいを達成するための発問をしている。



ICT機器の活用

- ☐ 大型提示装置を活用し、プロジェクターに教材を映している。
 - ☐ タブレット端末を活用し、教材を校内で共有している。
 - ☐ タブレット端末を活用し、共同編集作業に取り組ませている。
- ※実践事例集を参照

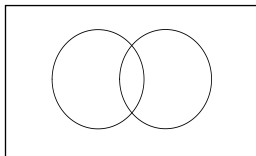


思考ツールの活用

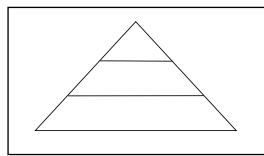
- 多面的・多角的に捉えさせ、情報を整理・分析させている。
- 比較・検討・分類・統合・関連付けしながら考えたことを可視化し、操作させている。

(例)

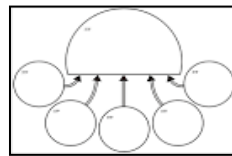
ベン図



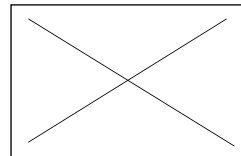
ピラミッド



クラゲチャート



Xチャート



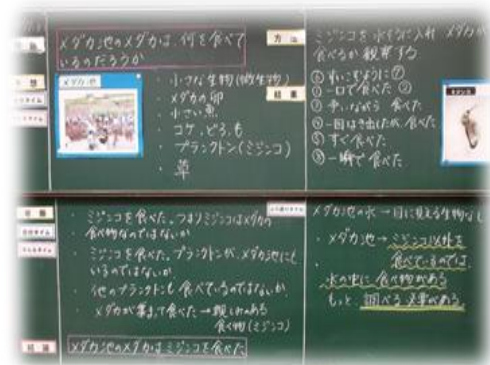
価値ある対話の共有

- 比較・検討・分類・統合・関連付けしながら、児童・生徒の多角的に捉えている。
- 一人ひとりの考えを表出させている。
- 教師が児童・生徒の発言を価値付けている。
- 児童・生徒が考えたことを共有している。
- 児童・生徒が本時の学習課題を理解したり、課題を解決したりしている。



構造的な板書とノート指導

- めあて・学習活動・まとめ等、一単位時間の流れが一目で分かる。
- ノートに書かせる内容を指示している。
- 情報が整理され、見やすくて分かりやすい。
- 児童・生徒の考えたことをキーワードでまとめている。
- 1時間の学習内容や児童・生徒の思考過程を可視化している。



振り返りの設定

- 本時のめあてを振り返らせている。
- 学習内容をまとめている。
- 自分の言葉で本時の学習について自己評価させている。
- 次時の学習の見通しをもたせている。
- 単元のゴールを明確にしている。



(2) 授業をデザインする8つの取組を基にした主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

「授業をデザインする8つの取組」及び「町田市 特別支援教育ハンドブック」と関連した「町田市スタンダード授業改善シート」を活用して、評価・分析・改善を繰り返すことによって日々の授業実践に取り組めます。

1 全体を見通した指導計画

- 【1】単元や題材の学習を通して、児童・生徒に身に付けさせる力を明確にした指導計画を作成している。
- 【2】個に応じた支援について、あらかじめ検討・準備している。

2 見通しをもたせる導入

- 【3】一単位時間（本時）のねらいを分かりやすく示している。
- 【4】児童・生徒の興味・関心を高め、主体的な学習を促している。

3 発問の工夫

- 【5】児童・生徒の好奇心や学習意欲を促すために発問を工夫している。
- 【6】児童・生徒の考えを引き出し、思考を広げるために発問を工夫している。

4 ICT機器の活用

- 【7】児童・生徒の円滑な学習を促すためにパワーポイントやスライドの視覚的な資料を作成している。
- 【8】スプレッドシートやスライド、ドキュメント、フォームを活用して、児童・生徒の意見の共有や集約をしている。

5 思考ツールの活用

- 【9】児童・生徒の考えを分類、統合、比較、検討し、整理したり関連付けたりしている。
- 【10】課題解決に向けて、児童・生徒に多面的・多角的に考えさせている。

6 価値ある対話の共有

- 【11】目的やテーマを明確にして、話し合いをさせている。
- 【12】児童・生徒が自分たちで考えたことをまとめたり、解決したりする場面を設定している。

7 構造的な板書とノート指導

- 【13】一単位時間の学習内容が明確で、児童・生徒の思考を広げたり深めたりするために板書を工夫している。

8 振り返りの設定

- 【14】児童・生徒が「学習のめあて」の達成について、振り返る場面を設定している。
- 【15】児童・生徒に次時の学習の見通しをもたせている。

9 授業改善に生かす評価

- 【16】児童・生徒の資質能力を育むために、単元や題材の学習を通して「いつ」「何を」「どのように」評価するかを明確にしている。
- 【17】個の学習状況を把握し、その場で支援したり、次時の授業を改善したりしている。

10 認め合う・学び合う集団の形成

- 【18】児童・生徒に対し、受容・称賛・励まし等の言葉を掛けて、価値付けをしている。

(3) 「町田市スタンダード授業改善シート」の活用

「授業をデザインする8つの取組」及び「町田市 特別支援教育ハンドブック」と関連した「町田市スタンダード授業改善シート」を活用して、年間をととして授業改善に取り組みます。

授業をデザインする8つの取組

- 見通しをもたせる導入
- 発問の工夫
- ICT機器の活用
- 思考ツールの活用
- 価値ある対話の共有
- 構造的な板書とノート指導
- 振り返りの設定
- 認め合う・学び合う集団の形成

町田市 特別支援教育ハンドブック 授業チェックリスト

特別支援教育の視点を踏まえた授業チェックリスト 〈町田市版〉		
学習環境を整える		
①	前面黒板の周りが整頓されている。	
②	発言は、挙手し、許可を得てからするように指導している。	
③	場に応じた声の大きさを視覚的に示している。(学級全体、グループ、隣)	
④	話し方の型やパターンを示し、活用できるようにしている。	
⑤	子どもの特性、関係性に配慮した座席位置にしている。	
⑥	授業に必要な用具の準備を事前に確認している。	
⑦	授業の開始時刻と終了時刻を守っている。	
学習にひきつける・関わらせる		
⑧	全員からの注目を徹底させてから、教師が指示を出している。	
⑨	授業の流れや内容などを視覚的に示している。	
⑩	授業のねらいをはっきりとわかりやすく提示している。	
⑪	具体的でわかりやすい言葉を使って話している。	
⑫	ひきつける声の調子・声の抑揚・表情・身体表現を意識して取り入れている。	
⑬	大切なことを、色・マーク・ライン・囲みなどで強調している。	
⑭	子どもの負担・苦手度に応じて活動の量を調整している。(書く、聞くなど)	
⑮	子どもの理解の状況に気を配りながら進めている。	
⑯	個の意見を全体に広げながら学習を進めている。	
個に寄り添った支援をする		
⑰	個々の課題に応じた支援についてあらかじめ検討・準備している。	
⑱	子ども自らが援助要請できる方法や、事柄に対処する方法を教えている。	
⑲	丁寧・穏やか・肯定的な友達への話し方を身に付けさせている。	
⑳	友達への称賛や同意、拍手などを自然に行う雰囲気をつくっている。	
㉑	特別な例があることを学級みんなが認めている。	
㉒	子どもの言動に対して認める言葉を積極的にかけている。	
㉓	「学習のめあて」の達成について、自己評価(振り返り)を行っている。	

主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善

「町田市スタンダード授業改善シート」

授業参観時の他者評価

授業後の自己評価



主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業実践

「町田市スタンダード授業改善シート【Excel版】」の活用

授業をデザインする8つの取組及び実践事例集を基に授業実践に取り組む中で、自己評価を行い、達成状況を把握する。（年間3回の自己申告時など）年度末には自己の到達度を把握し、次年度につなげる。

【活用方法】

1. 回答欄に各項目の自己評価を入力する。
4…当てはまる 3…だいたい当てはまる 2…あまり当てはまらない 1…当てはまらない
2. レーダーチャートにより、実態を把握する。
3. 成果と課題をまとめる。

「授業をデザインする8つの取組」と
「町田市特別支援教育ハンドブック 授業チェックリスト」との関連

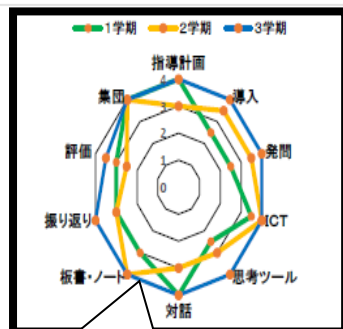
町田市スタンダード授業改善シート

*1「町田市 特別支援教育」授業振り返りシートの項目との関連

項目	氏名()	回答欄				解答欄		
		当てはまる	だいたい当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	1学期	2学期	3学期
1 全体を見通した指導計画								
(1) 単元や題材の学習を通して、児童に身に付けさせる力を明確にした指導計画を作成している。		4	3	2	1	4	3	4
(2) 個に応じた支援について、あらかじめ検討・準備している。		4	3	2	1	4	3	4
2 見通しをもたせる導入								
(3) 一単位時間(本時)のねらいを分かりやすく示している。		4	3	2	1	3	4	4
(4) 児童の興味・関心を高め、主体的な学習を促している。		4	3	2	1	2	3	4
3 発問の工夫								
(5) 児童の好奇心や学習意欲を促すための発問をしている。		4	3	2	1	3	4	4
(6) 児童の考えを引き出し、思考を広げる発問をしている。		4	3	2	1	2	3	4
4 ICT機器の活用								
(7) 児童・生徒の円滑な学習を促すためにパワーポイントやスライドなどの視覚的な資料を作成している。		4	3	2	1	4	4	4
(8) スプレッドシートやスライド、ドキュメント、フォームを活用して、児童・生徒の意見の共有や集約をしている。		4	3	2	1	3	4	4
5 思考ツールの活用								
(9) 児童の考えを分類、統合、比較、検討し、整理したり関連付けたりしている。		4	3	2	1	2	3	4
(10) 課題解決に向けて、児童に多面的・多角的に考えさせている。		4	3	2	1	3	3	4
6 価値ある対話の共有								
(11) 目的やテーマを明確にして、話しをさせている。		4	3	2	1	4	3	4
(12) 児童が自分たちで考えたことをまとめたり、解決したりする場面を設定している。		4	3	2	1	4	3	4
7 構造的な板書とノート指導								
(13) 一単位時間の学習内容が明確で、児童の思考を広げたり深めたりする板書になっている。		4	3	2	1	3	4	4
8 振り返りの設定								
(14) 児童が「学習のめあて」の達成について、振り返る場面を設定している。		4	3	2	1	3	3	4
(15) 児童に次時の学習の見通しをもたせている。		4	3	2	1	3	3	4
9 授業改善に生かす評価								
(16) 児童の資質能力を育むために、単元や題材の学習を通して「いつ」「何を」「どのように」評価するかを明確にしている。		4	3	2	1	4	3	4
(17) 個の学習状況を把握し、その場で支援したり、次時の授業を改善したりしている。		4	3	2	1	2	2	3
10 認め合う・学び合う集団の形成								
(18) 児童に対し、受容・称賛・励ましの言葉を掛けて、価値付けをしている。		4	3	2	1	4	3	4

回答欄に各項目の自己評価を入力する。

各項目の平均値が自動算出される。



レーダーチャートにより
成果と課題を把握する。

成果と課題		指導計画	導入	発問	ICT	思考ツ- / 対話	板書・ノ-	振り返り	評価	集団
1学期		4	2.5	2.5	3.5	2.5	4	3	3	3
		3	3.5	3.5	4	3	3	4	3	2.5
		4	4	4	4	4	4	4	4	3.5
2学期										
3学期										

各学期の成果と課題を記入し、次学期及び次年度へつなげる。

各学期の成果と課題を記入し、次学期及び次年度へつなげる。

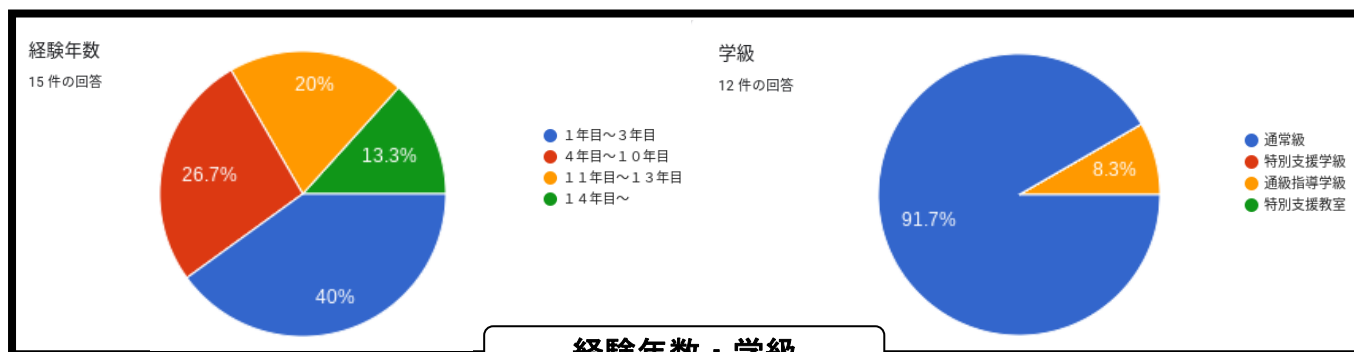
「町田市スタンダード授業改善シート【Google フォーム版】」の活用

学校の実態及び個人の実態の把握をする。（年間3回の自己申告時など）

また、自己申告での具体的な達成目標の設定及び面接等での指導・助言に活用することで、組織的に授業実践し、PDCA サイクル化を図る。

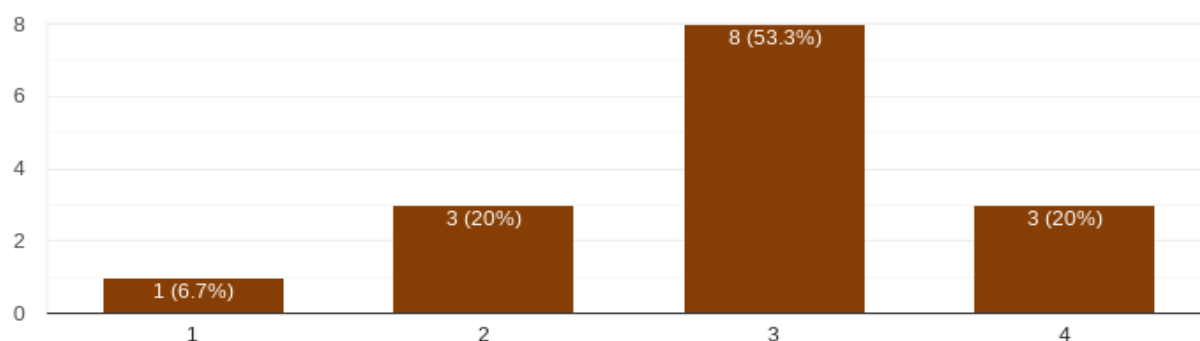
【活用方法】

- 各質問項目に回答を入力して、送信する。
4…当てはまる 3…だいたい当てはまる 2…あまり当てはまらない 1…当てはまらない
- 回答の概要から、分析情報を確認する。
- 経験年数・学級・担当教科・各項目の回答状況から学校の実態を把握する。



【単元を見通した指導計画】②個に応じた支援について、あらかじめ検討・準備している。

15 件の回答



各項目の回答

3 授業実践事例【小学校】



自分との対話、友達との対話を通して、 読みを深めていく工夫



【実践した主な8つの取組】 思考ツール、構造的な板書と ICT 機器の活用・発問の工夫

■ 学校名 本町田小学校 授業者 主幹教諭 秋場 栄美

■ 教科 国語科 単元名 対話して読もう「お手紙」

■ 学年 第2学年

単元の目標

【知識及び技能】・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。

【思考力、判断力、表現力等】・場面の様子に着目して、登場人物の行動や心情を具体的に想像することができる。

・文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。

【学びに向かう力、人間性等】・粘り強く、場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って読み深めるとともに、本文やシリーズの本に興味をもち、進んで読み、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

時数	主なねらい
1	リード文や挿絵、題名から物語の内容を想像する。 単元の学習の見通しをもつ。（読みのめあてを設定する）
2	教材文を読み、あらすじの大体をつかむ。
3	物語の全体を見通して中心人物の心情の変化をとらえる。
4	挿絵を参考にしながら、場面ごとの内容を詳しくつかむ。
5	二人の登場人物の気持ちの大きな変化を読み取る。
6	場面ごとの二人の登場人物の気持ちの変化を詳しく読み取る。
7	個で読み取ったことをもとに、二人の登場人物の気持ちの変化について話し合い、読みを深める。
8	お手紙を書いたことをつい言ってしまったことについて、詳しく読み取る。
9	「親友」という言葉に込められたかえるくんの思いに気付く。
10	学習して分かったことや感じたことを、共有する。

【実践について】

めあて

個で読み取ったことをもとに、かえるくんとがまくんの気持ちの変化について話し合い、読みを深める。

（○学習活動 ・ 児童の反応

☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】）

○記入した明暗スケールを比べて、考えの同じ所や違うところについて話し合う。

☆前時にまとめたワークシートを見合い、意見交換する時間をもつ。

- ・ がまくんは、ずっと悲しい気持ちでいるところは同じだね。すぐお手紙が欲しいけど、誰もくれないって落ち込んでいるんだ。
- ・ かえるくんがかたつむりくんが来るのを待っている時の気持ちが人によって違うよ。
- ・ 早く来ないかなって、早く喜ばせたいってワクワクしているんだよ。
- ・ かたつむりくんがあんまり遅いから心配になっているよ。
- ・ かたつむりくんに頼まないほうがよかったかなって思っているかもしれない。

☆個々の考えの違いに注目するように、促す。それぞれの考えのもとになった心情について発言をさせる。

○大きな違いのあった3の場面について、帰るくんの行動や言葉に再度注目する。

☆教科書のかえるくんの様子をもう一度読み返し、行動や会話文に注目させる。

- ・ 3回も励ましているのに、がまくんがちっとも元気を出してくれなくてちょっと悲しくなっているのかも。
- ・ 窓の外を見て、お手紙はやく来てって焦っている。
- ・ もうお手紙のこと言っちゃいたって、苦しい気持ちになっている。

○自分の考えを詳しくノートにまとめる。

☆話し合ったことをもとに、友達の見解や自分の考えを整理し、まとめさせる。

◇【思・判・表：発言、ノート】

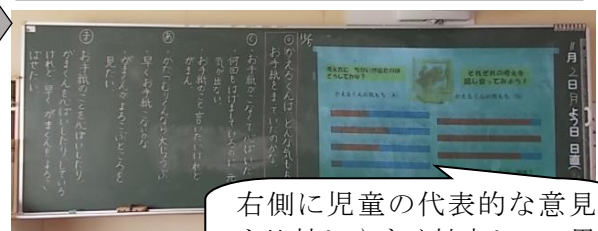
【児童の変容】

- ・ 明暗スケールという思考ツールを使用することによって、言葉による表現が苦手な児童も個の考えを明確に表現することができ、違いに注目して話し合いを進めることができた。
- ・ 個々の考えの違いに注目したり、教材文に立ち返ることによって、なぜそういう考えになったのかを活発に話し合ったりして、読みを深めることができた。

思考ツールの活用

- ・ 自分の考えを明確にするためのワークシートを使用した。言葉だけでは十分な表現ができない児童も、色や図を用いて考えを表すことは比較的容易にできる。また、図で表したものは、比較しやすく、その後の話し合いに有効に活用することができる。

構造的な板書と ICT 機器の活用



右側に児童の代表的な意見を比較しやすく拡大して、黒板に表示。

- ・ 意見の違いが
 どういう考えから出て来たものかを考えるきっかけを共有できる。左側には、話し合いで出てきた児童の意見を書く。ここでは、明と暗の気持ちの考えを分けて板書している。
- ・ 図と板書した言葉が、右と左でつながるように板書計画を立てるとよい。

発問の工夫

- ・ 心情を考える手がかりとなる教材文に立ち返る発問をし、より具体的な言葉で根拠をはっきりとさせた意見を言えるよう導く。





何をどのように学ぶのか見通しをもつための工夫



【実践した主な8つの取組】 見通しをもたせる導入の工夫・発問の工夫

- 学校名 鶴川第二小学校 授業者 指導教諭 市川 裕佳子
- 教科 国語科 単元名 読む人が納得するような理由や根拠を挙げて意見文を書こう「あなたは、どう考える」
- 学年 第5学年

単元の目標

【知識及び技能】・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。

【思考力、判断力、表現力等】・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。
・事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

【学びに向かう力、人間性等】・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

時数	主なねらい
1	単元のゴールイメージをもち、学習計画を立てる。
2 3 4 5 6 7	意見文の話題を決めて、自分の考えをもち、伝えたいことに合わせて取材をする。 取材をして得た情報を整理し、伝えたいことを明らかにする。 伝えたいことが伝わるような構成を決める。 伝えたいことが伝わるように書き表し方を工夫して記述する。 自分の文章を読み直し、伝えたいことが伝わるように書き表し方を工夫して清書する。
8	書いた文章を読み合い、書き表し方の工夫について伝え合う。 学習を振り返り、身に付けた力や今後の学習に生かしたいことをまとめる。

【実践について】

めあて

単元のゴールイメージをもち、学習計画を立てる。

(○学習活動 ・ 児童の反応

☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】)

○複数の投書を読み、興味のある話題について自分の考えをもつ。

☆投書に書かれていることに対して、賛成・反対・その理由を話し合わせることで、同じ話題でも人によって考えや理由付けが違うことに気付かせる。その上で、自分とは違う立場の人が納得できるような意見文を書くという目的意識をもてるようにする。

○2つの文例を比較し、これから書く文章の特徴をとらえる。

- ・どちらの文章も、自分の立場を「はじめ」と「おわり」にはっきりと示しているね。この前学習した説明する文章と似ているね。
- ・「確かに～という考えも分かるが」のように、反対の立場の人の意見も認めながら自分の考えを伝えているのがいいね。
- ・反対の立場の意見と比べることで、自分の意見のよさについて、より分かりやすく伝えることができるね。

◇【知・技：ワークシートの記述内容・発言】

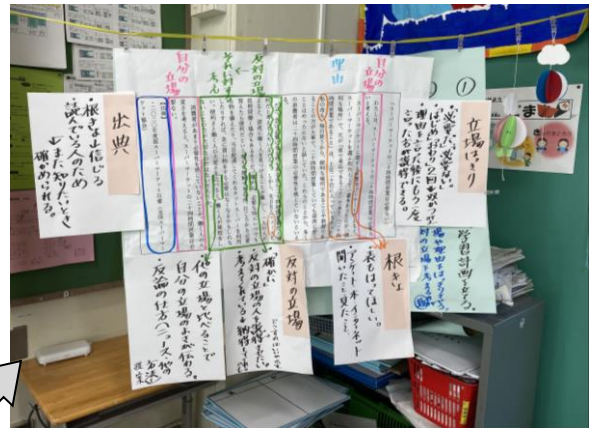
○既習の単元の学習計画をもとに、本単元の学習計画を立てる。

- ・前回の資料を使って自分の考えを書いたときの学習計画が使えるだね。
- ・今回は、予想される反論を考えるのが難しそうだね。自分の考えをもつ活動では、友達と交流しながら、考えていきたいな。
- ・予想される反論をどのように書いたらいいのか確認する時間も必要だね。

【児童の変容】

- ◎2つの文例を比較することで、本単元で扱う意見文の特徴が明確になり、取材や構成の決定、記述の場面において、単元のゴールイメージを意識しながら活動に取り組んでいた。
- ◎考える視点を示すことで、交流内容が具体的になり、友達との考え方の違いを明らかにしながら話し合う様子が見られた。

見通しをもたせる導入の工夫



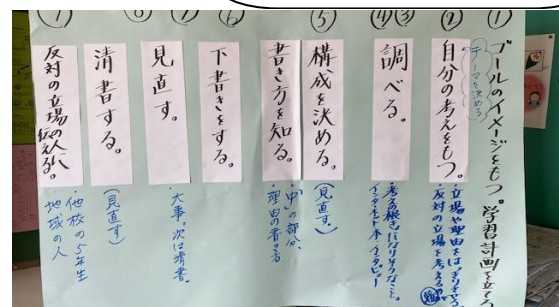
- ・「予想される反論とそれに対する考えがある意見文」とそうでない意見文を比較し、共通点や相違点に着目することで、どのような意見文を書けるようになればいいのか具体的なゴールイメージをもてるようにする。
- ・ここに出てきた意見を、模造紙などにまとめて掲示しておくことで、自分がどのような意見文を書ければよいのか、常に確認できるようにするとよい。

発問の工夫

- ・既習の報告文や資料を活用した意見文を書いた時の学習計画を示し、それを手がかりに学習計画を立てる。その時に、どのような視点で既習の単元の学習計画を活用すればよいのか、発問で具体的に示すとよい。



- ・学習の内容や順番はこのまま使えるかな。
- ・今回は、どの活動が難しそうかな。





社会的事象を比較・分類・総合したり、 関連付けたりする工夫



【実践した主な8つの取組】 思考ツールの活用

■ 学校名 小山ヶ丘小学校 授業者 主任教諭 吉松 一弘

■ 教科 社会科 単元名 自然災害からくらしを守る

■ 学年 第4学年

単元の目標

- 【知識及び技能】・東京都や町田市、警察署や消防署等の関係機関や地域の人々は、自然災害に対して様々な協力をしてきたことや、今後想定される自然災害に対して様々な備えをしていることを理解できる。
- ・聞き取り調査をしたり、地図や年表などの資料で調べたりして、関係諸機関や地域の人々の協力関係を図表にまとめることができる。
- 【思考力、判断力、表現力等】・過去に発生した自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】・過去における自然災害の発生や自然災害から人々を守る活動に関心をもち、予想を基に学習計画を立て、問題解決の見通しをもって主体的に学習問題を追究・解決することができる。
- ・過去の自然災害や、人々の安全を守る取組について学んだことを基に、地域社会の一員として、地域の人々を守る取組や、関係機関や地域の人々に協力しようとするすることができる。

時数	主なねらい
1	過去の豪雨から、どのような被害があったのか考える。
2	今後東京で風水害が起きた場合、どのような災害が予想されるか考え、学習問題を作る。
3	学習問題の答えを予想し、学習計画を立てる。
4	東京都に流れる川と東京都の洪水について調べる。
5	東京都が管理する川は水害に対して、どのような取組をして人々を守っているのか調べる。
6	自然の力で水害を防ぐために、東京都ではどのような取組をしているか調べる。
7	東京都では、水害が減っているのか調べる。
8・9	町田市・地域住民・消防署はどのように関わり水害から身を守っているか調べる。
10	これまで学習してきた内容を自助・共助・公助という観点で整理する。
11	オリジナルの防災マニュアルをつくる。
12	オリジナルの防災マニュアルをもとに防災対策について発表する。

【実践について】

めあて

風水害から人々を守るための様々な取組を自助・共助・公助に整理して、学習問題の答えをまとめる。

(○学習活動 ・ 児童の反応

☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】)

○前時までの学習をふり返る。

☆前時において、自然災害から人々を守るための様々な取組を「備え」と「対処」に分類し、表にまとめたものを提示する。

☆前時で「備え」と「対処」に分類した際、備えには青、対処には黄の色を付けておく。
→視覚的に違いが分かりやすくなる。
→次の自助・共助・公助と関連させることができる。

○これまで学習してきた風水害から人々を守るための様々な取組が、自助・共助・公助のどれにあたるか考え、分類する。

☆ベン図を用いる。

→一つ一つの取組が他の取組とどのように関連しているかということを考えながら分類することができるようになる。

・自治会で名簿を作成すること自体は共助であると言えますが、災害が起こったときにその名簿が支援物資の支給などに役立てられるので公助にも関係があると考えた。

○学習問題に対する答えをまとめる。

・自助・共助・公助が全てそろって防災が成り立つのだと思った。私はこれから、自分にできる自助や共助を精一杯やりたい。

◇【知・技：発言・ノート】

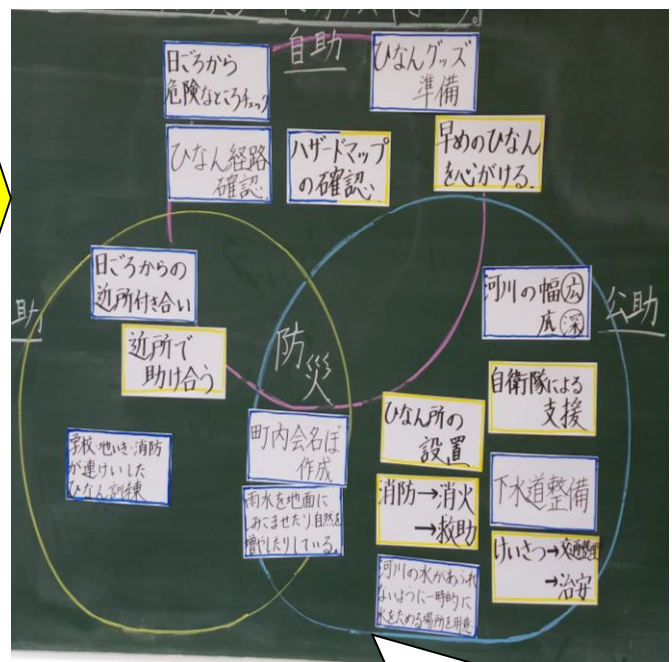
【児童の変容】

ベン図や表などの思考ツールを用いて比較・分類・総合したり、関連付けたりする活動を何度か取り入れたことで、社会的事象を多面的・多角的に捉え、その他の事象や自分たちの生活と関連付けられるようになってきた。

思考ツールの活用

備え		対処	
ハザードマップの確認			
河川の幅員底床	日ごろからの近所付き合い	ひなん所の設置	自衛隊による支援
雨水を地面にしみこませたり、自然と増やしたりしている。	ひなん経路の確認	消防→消火→救助	近所で助け合う
河川の水があふれないように一時的に水をためる場所を用意	日ごろから危険なところを	けいさつ→交番→治安	早めのひなんを心がける。
下水道整備	町内会名簿作成		
ひなんグッズ準備	学校地は消防が駆けつけたひなん訓練		

※簡単な表を活用した分類



☆一つ一つの取組を短冊にして児童が配置したい場所に自由に動かせるようにすることで、

→児童の多様な考えを引き出すことができる。
(児童によって少しずつ配置に差が出るため)

→既習事項を根拠にした議論が生まれる。
(一つ一つの配置に根拠をもたせておくことが重要)



学習内容を視覚化し、理解を深めるための工夫



【実践した主な8つの取組】 見通しをもたせる導入の工夫・ICT機器の活用

■ 学校名 大蔵小学校 授業者 主任教諭 石井 靖

■ 教科 算数科 単元名 「たしざん」

■ 学年 第1学年

単元の目標

【知識及び技能】・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算が、「10といくつ」という数の見方を基に
してできることを理解し、その計算が確実にできる。

【思考力、判断力、表現力等】・10のまとまりに着目し、1位数どうしの加法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、
表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】・1位数どうしの加法計算の仕方について、「10といくつ」という数の見方や操作、図
などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうと
することができる。

時数	主なねらい
1	教科書を見て、「あわせてなんこ」を求める場面であることから、加法であることを考え、立式する。既習の加法計算を振り返る。
2	1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法を理解する。
3 4	前時までの学習を踏まえ、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法の理解を確実にする。
5 6	1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。
7 8 9	計算カードを用いたいろいろな活動を通して、繰り上がりのある1位数どうしの加法計算の練習をする。 答えが12になるカードを集めたり、同じ答えのカードを並べたりして、数の並び方の規則性を見だし、数の関数的な見方にふれる。
10	学習内容の定着を確認するとともに、単元で学習したことのよさを感じる。

【実践について】

めあて

繰り上がりのあるたし算の計算のしかたを理解する。

(○学習活動 ・児童の反応

☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】)

○問題文から、 $9 + 4$ は未習の計算であることを確認する。

・数えていけば答えは分かるけど。

・答えが10を超えるよ。

☆既習の計算方法を児童から引き出しながら丁寧に振り返り、本時の課題をつかませる。

○ $9 + 4$ の計算の仕方を考える。

・10といくつにするためにはどうすればいいかな。

・9は、あと1で10になるね。

○操作や図を用いて、 $9 + 4$ の計算の仕方を説明する。

・9は、あと1で10だから、4を1と3にわけろ。

・9に1をたして10になる。

・10と3で13になるよ。

○ $9 + 4$ の計算の仕方をまとめる。

①9はあと1で10。

②4を1と3にわけろ。

③9に1をたして10。

④10と3で13。

○本時の学習内容を生かして $9 + 3$ の計算をする。

・9は、あと1で10だから、3を1と2にわければいね。

・10と2で12になるよ。

・ノート書き方も分かったね。

【児童の変容】

◎「10よりおおきいかず」で学んだことを想起させたことで、自力解決の段階で10のまとまりに着目して計算するよさに気付いた児童が多く見られた。

◎他の数でも同じように計算できるか試してみる児童の姿も見られた。

見通しをもたせる導入の工夫



ゆかさんは どんぐりを 9こ
ひろさんは 4こ ひろいました。
あわせて なんこ ひろいましたか。

9

4



10 11 12 13



1、……、9、10、
11、12、13、
ぜんぶで 13こだね。



いつも
かぞえるのは
たいへんだね

① しきを かきましょう。

しき $9 + 4$

・問題文を掲示し、問題文から読み取れることを整理し、本時で何ができるようになっていけばよいか具体的なゴールイメージを共有できるようにする。

・教師が一方的に提示するのではなく、児童の気付きを引き出して、課題を設定するようにする。

ICT機器の活用

② けいさんの しかたを かんがえましょう。



9は あと 1で 10だから



4を 1と 3に わけます



9に 1を たして 10に なります



10と 3で 13です

$$9 + 4 = 13$$

答え 13こ

② けいさんの しかたを かんがえましょう。

< し き >		9 + 4		
< け い さ ん の し か た >				
	9 + 4			
			10 を	
10	1	3	つ く る	
し き	9 + 4 = 13			
こ た え	13 こ			

視覚化すること
で、ノート
指導にもつ
ながる。

・個に応じた支援をしながら、十分に自力解決する時間を確保した上で、パワーポイントやスライドで作成した資料を段階的に提示していくことで、理解を深めていく。



基礎的・基本的な学習内容の 知識・技能を身に付けるための指導法の工夫



【実践した主な8つの取組】 ICT機器の活用

- 学校名 大蔵小学校 授業者 主任教諭 石井 靖
 ■ 教科 算数科 単元名 四角形の特ちょうを調べよう
 ■ 学年 第4学年

単元の目標

- 【知識及び技能】・直線の平行、垂直の関係や、それらを活用して平行四辺形やひし形、台形の特徴について理解できる。
- 【思考力、判断力、表現力等】・辺の位置関係や構成要素に着目して、様々な四角形の性質を見出して表現したり様々な四角形と対角線の特徴を整理して考え、説明したりできる。
- 【学びに向かう力、人間性等】・学習内容を振り返り、粘り強く考えたり、数学のよさに気づいたり、学習したことを今後の生活や学習に活用しようとすることができる。

時数	主なねらい
1	2直線が交わってできる角に着目し、垂直の意味とその弁別について考える。
2	垂直な直線のひき方を考える。
3	2直線の並び方に着目し、平行の意味とその弁別について考える。
4	平行な2直線に交わる直線に着目し、平行な直線の性質について考える。
5	平行な直線のひき方を考える。
6	直線の垂直や平行の関係を考える。
7	平行な辺の組数に着目し、台形と平行四辺形の意味を考える。
8	辺の位置関係や構成要素に着目し、平行四辺形の性質について考える。
9	辺の位置関係や構成要素に着目し、平行四辺形のかき方について考える。
10	辺の位置関係や構成要素に着目し、ひし形の意味、性質、かき方を考える。
11	対角線の意味や四角形の対角線に関する性質について考える。
12	学習内容の生活への活用を考える。
13	学習内容の習熟・定着を図る。

【実践について】

めあて

辺の位置関係や構成要素を基に平行四辺形をかくことができる。

(○学習活動 ・ 児童の反応

☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】)

○画面を見ながら前時で学習した平行四辺形の特徴や性質を復習する。

- ・ 向かい合った2組の辺が平行。
- ・ 向かい合った辺の長さが等しい。
- ・ 向かい合った角の大きさが等しい。

○平行四辺形の性質に関わる問題を画面に映し、辺の長さや角の大きさを考える。

- ・ 一つの角の大きさが 65° だから向かい合ったもう一つの角は 65° 。
- ・ 一つの辺の長さが 6 cm だから、向かい合うもう一つの辺も 6 cm 。

○板書の日付、めあてをノートに書き、本時の学習を確認する。

○動画を見ながら、辺イウ (4 cm) と 70° を計って辺アイ (3 cm) をひく。

○頂点エの位置は、どのようにして決めればよいか考える。

○動画を見て、どうして頂点エが決まるのか考え、気付いたことを発表する。

- ・ 頂点ウから、コンパスで辺アイと等しい長さのところにしるしをつけている。
- ・ 頂点アから、コンパスで辺イウと等しい長さのところにしるしをつけている。
- ・ 平行な直線のひき方を使って、辺イウと平行な辺を頂点アから引いている。

○平行四辺形のどんな特徴を使ってかいているのか考える。

- ・ 向かい合った辺の長さは等しいこと。
- ・ 向かい合った辺は互いに平行なこと。

◇【思・判・表：観察・ノート】

○動画を見ながら、平行四辺形アイウエをかく。

○動画を見ないで、練習問題に取り組む。

◇【知・技：観察・ノート】

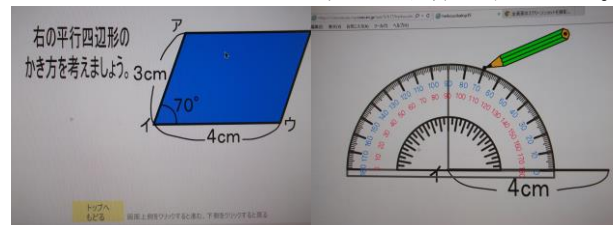
【児童の変容】

- ◎平行四辺形の特徴、性質の理解が深まった。
- ◎繰り返し動画を見ることで、確実に作図をすることができるようになった。

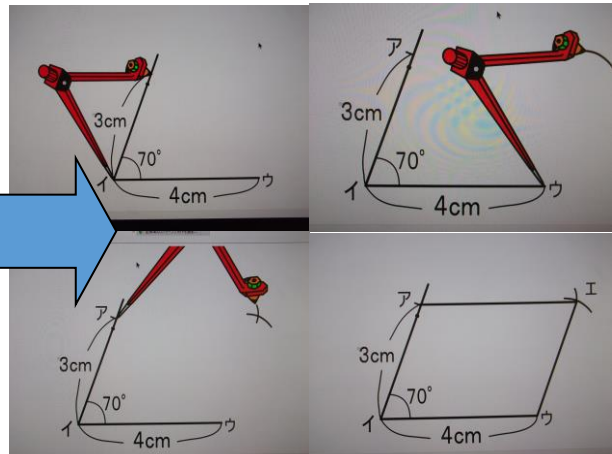
ICT機器の活用



☆導入時で平行四辺形は、向かい合う2組の辺の長さが等しいこと、向かい合う2組の角の大きさが等しいこと、向かい合う2組の辺が平行であることを確認する。平行四辺形を作図するとき、この特徴や性質を使っていることに気付かせることができるかどうかは授業の鍵である。



☆分度器の置き方を画面で確認し（表と裏、青と赤どちらの目盛りを見るのかなど）、 70° を計り、辺アイの長さ (3 cm) がきちんと引けているか、机間指導、支援を行う。



☆コンパスの針の場所や鉛筆の動きを児童と確認しながら、動画を視聴させる。

☆コンパスの動きを見て、頂点エがどうして決まるのか、自分の言葉で表現させる。

☆黒板上で作図すると、コンパスや定規の操作を繰り返したり、逆回転させたりすることが難しい。動画の利点を生かし、繰り返し見せて、コンパスや定規の動きの真似をさせながら技能を確実に習得させたい。



自分の考えを自分の言葉で表現することができる工夫



【実践した主な8つの取組】 見通しをもたせる導入・振り返りの設定

- 学校名 木曽境川小学校 授業者 主任教諭 林 義人
- 教科 理科 単元名 電気の通り道
- 学年 第3学年

単元の目標

- 【知識及び技能】・電気が流れるつなぎ方や、電気をよく通すものを理解することや、器具などを正しく扱って実験を行うことができる。
- 【思考力、判断力、表現力等】・回路のつなぎ方から電気が流れるかどうかを考えたり、ものの見た目から電気の通り道になるかどうかを考えたりすることができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】・電気の回路について、すすんで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとすることができる。

時数	主なねらい
1	乾電池の＋極、ソケット、乾電池の－極を導線で1つの輪のようにつなぐと豆電球に電気が通り、豆電球に明かりがつくことを理解する。
2・3	乾電池と豆電球を導線で回路にすれば、電気が通ることを理解する。
4	豆電球の中のフィラメントは、どこにつながっているかを理解する。
5	ソケットの導線が、どこにつながっているかを理解する。
6	鉄や銅、アルミニウムなどのピカピカ光って見える金属は電気を通すことを理解する。
7・8	銀色の折り紙や金色の折り紙はピカピカ光って見えるものが電気の通り道になることを理解する。
9	教室の中の物で、金属でできているものは電気の通り道になることを理解する。

【実践について】

めあて

ピカピカ光って見えるものは電気をよく通す。

(○学習活動 ・ 児童の反応

☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】)

○電気の通り道になるものについて考える。

- ・ピカピカして見えるものは電気の通り道になる。

○銀色の折り紙は電気をよく通すか考える。

- ・銀色の折り紙も、豆電球のねじねじのところみたいにピカピカ光って見えるから電気をよく通すのではないかな。
- ・銀色の折り紙は、紙だから電気をよく通さないのではないかな。

○銀色の折り紙の表側は電気をよく通すか実験して確かめる。

○金色の折り紙は電気をよく通すか考える。

- ・金色の折り紙も、銀色の折り紙の表みたいにピカピカ光って見えるから電気をよく通すのではないかな。

○金色の折り紙の表側は電気をよく通すか実験して確かめる。

- ・なにかで覆われているかもしれないから、表面をやすってみたらどうだろう？

○金色の折り紙の表側をやすったところは電気をよく通すか実験して確かめる。

○〈確かになったこと〉をノートにか書く。

◇【思・判・表：発言・ノート】

○かんの表面も電気の通り道になるか考える。

(演示実験)

○かんの表面も電気の通り道になるか考え、実験で確かめる。

○〈確かになったこと〉をかく。

【児童の変容】

◎紙のように薄いものでもピカピカして見れば、電気の通り道になることが理解できるようになった。

◎ピカピカして見えるのに電気が通らないときは、電気の通り道になるものが被覆されているため、やすりなどでやすれば電気を通すと考えられるようになった。

見通しをもたせる導入の工夫



具体的なものを使って、「ピカピカして見えるものは電気をよく通す。」という言葉を引き出す。

振り返りの設定

振り返りでは児童に、自分の言葉で具体的な事実やそのことから見出せることについて綴らせることを大事にする。

光、ているものの中ででんきをとる
さがないものはやすりでけするでんきの
はくたしかにが、たこととおり道になる
今日教室で理科のべん強をした。は
じめに前のふく習をした。次に銀色の
おり紙の表とうらをした。うらは電気
のとおり道にならなかつた。表は光
、ていたのでもお、でんきのとお
り道にな、たさいこに金色のおり紙
の表とうらをや、た。表は金色も銀
色がとお、たからでんきのとおり道
にならなかつた。うらは前と同じでとお
らなかつた。表を中川くんがやすり
でけした。すると銀色にけす、
た部分だけ銀色にな、たでんきを
おしてみるととおり道にな、た今日
のべん強でたしかにが、たことは光
、ているものでも光らないものがある
、たことだ。

学習内容を端的にまとめ、題にしている。

根拠に基づいて考えることができる。

したことや見たことなどについて、具体的な事実認識ができています。



学習内容の理解を深め、活用する工夫



【実践した主な8つの取組】 ICT機器の活用・価値ある対話の共有

- 学校名 大蔵小学校 授業者 教諭 町田 希
- 教科 外国語科 単元名 Lesson5 It was green. 春と秋を比べて
- 学年 第6学年

単元の目標

日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ったり、短い話の概要を捉えたりすることができる。また、現在の状態と過去の状態について、見本を見ながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことともに、自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書いたり、話したりすることができる。

時数	主なねらい
1	現在の状態と過去の状態を比較して伝える語句や表現について知る。
2	現在の状態と過去の状態を伝える音声を聞き取り、理解を深める。
3	現在の状態と過去の状態について音声を聞き、イラストを頼りに英語を読む。
4	過去のできごとについて、どこに行ったか、何をしたか、その感想を伝える語句や表現に気づき、理解して使う。
5 6	現在の状態と過去の状態を比較したクイズを作り、クイズ大会を行う。

【実践について】

めあて

現在の状態と過去の状態について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる力を高める。

(○学習活動 ・ 児童の反応

☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】)

○フラッシュカードを見ながら、現在の状態と過去の状態を比較する表現について復習する。

- ・ It is old. It was new.
- ・ It is small. It was big.

○現在の状態と過去の状態を比較したクイズを作る。

☆児童一人一台クロムブックを配布。クラスルームから課題を開き、スライドを作成する。

◇【思・判・表：行動観察・スライド】

○クイズができた児童から、出題の練習をする。

○クイズ大会を行う。

- ・ It is black and white now. It was pink. What is this?
- ・ It is a panda.
- ・ Yes!!

☆クラス全体を8グループに分ける。各グループを2つに分け、出題者と回答者の役割を決める。

☆出題者は、お店屋さんとなり問題を出す。回答者はお客さんとなりいろいろなグループの問題を聞き、答え、ワークシートに記録する。制限時間内（15分）に何問のクイズに答えられるか挑戦する。

☆前半・後半と役割を交代する。

☆10問以上解けた児童はシールをもらう。

◇【態：行動観察・ワークシート】

○学習の振り返りをする。

☆友達の良いところや、自分の成長したところを記録し、発表する。

【児童の変容】

- ◎現在の状態と過去の状態を比較して伝える語句の表現への理解が深まった。
- ◎クロムブックを活用することで、クイズ作りに意欲的に取り組むことができた。スペルを意識して英単語を見る力が高まった。
- ◎クイズ大会を通して、積極的に英語を話したり、聞いたり、書いたりすることができた。

ICT機器の活用



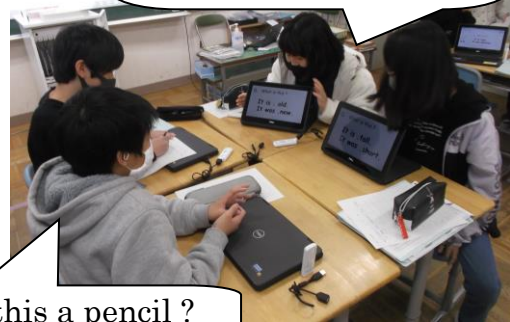
現在の状態と過去の状態を比較したクイズ作りの様子。

一枚目のスライドは、英文のみの問題を作成する。二枚目のスライドは写真と英文で回答を作成する。



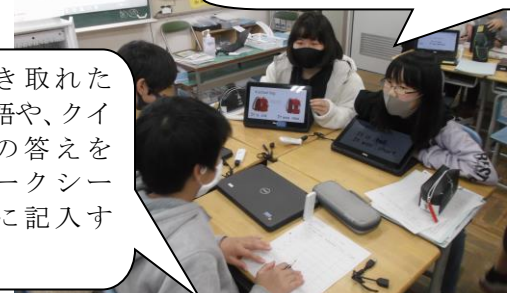
価値ある対話の共有

It is old. It was new.
What is this ?



Is this a pencil ?

This is a school bag!



聞き取れた英語や、クイズの答えをワークシートに記入する。

4 授業実践事例【中学校】



授業の流れを把握し、学習理解を深め、
積極的に授業に参加する工夫



【実践した主な8つの取組】

見通しをもたせる導入・構造的な板書とノート指導・振り返りの設定

- 学校名 町田第三中学校 授業者 教諭 中島 沙紀
- 教科 国語科 単元名 視野を広げて(「言葉 和語・漢語・外来語」)
- 学年 第3学年

単元の目標

- 【知識及び技能】・例文で使われている語句を和語・漢語・外来語・混種語に分類することができる。
- 【思考力,判断力,表現力等】・和語・漢語・外来語・混種語の違いを理解したうえで、内容に応じて適切な語を選んだり、言い換えたりすることができる。
- 【学びに向かう力,人間性等】・和語・漢語・外来語・混種語の違いを理解するとともに、使い分けようとし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

時数	主なねらい
1	「和語・漢語・外来語・混種語」の違いを理解し、単語を分類する。
2	「和語・漢語・外来語・混種語」の使い分けに注意し、文で使われている語句を分類し、言い換えることができる。

【実践について】

めあて

「和語・漢語・外来語・混種語」の使い分けに注意し、文で使われている語句を分類し、言い換える。

(○学習活動 ・ 生徒の反応

☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】)

○本時の流れを確認し、見通しをもつ。

☆流れを黒板に記入し、常を確認できるようにしておく。

○本時の目標を確認する。

☆生徒に本時のゴールを捉えさせる。

○問題文を確認し「和語・漢語・外来語・混種語」に分類する。

[①個人→②3・4人のグループ→③全体]

・「日曜日」は同じ「日」でも読み方が違うから混種語かな。

・カタカナは外来語だね。

・「タイムアップ」を言い換えると「時間切れ」だね。 ◇【知・技：ワークシート】

☆黒板と生徒のプリントを一致させる。

☆語句を色分けして視覚的に分かりやすく提示する。

☆全員が参加できるように、個人で分類した後、グループで確認してから全体で確認する。

☆確認の際はグループごとに色付きのカードを渡し、カードを挙げさせて答え合わせを行う。

☆色付きのカードを挙げるだけでなく、適宜理由や語句の言い換えについて確認する。

◇【思・判・表：発言】

○本時の内容を振り返る。

☆学習内容を振り返り、自己評価をプリントに記入させる。

※以下を【A(できた)～D(できなかった)】で自己評価する。

①語句の違いを捉え、分類することができた。

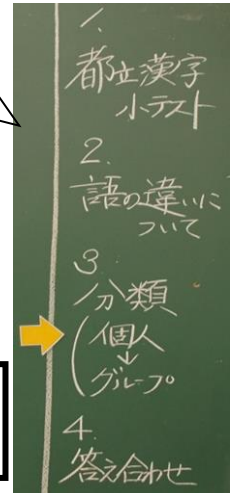
②グループで共有することで理解が深まった。

【生徒の変容】

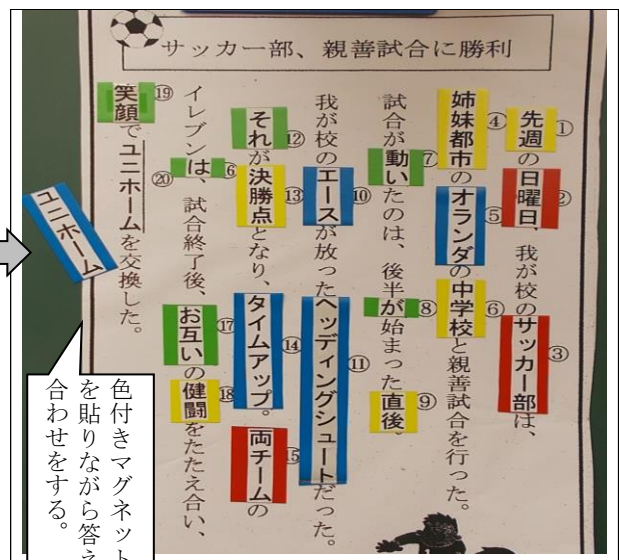
◎個人では分類が難しかった生徒もグループで意見交換しながら確認することによって理解が深まっていた。(振り返りの①より②の方が自己評価を高くつけた生徒が多かった。)

見通しをもたせる導入の工夫

流れを黒板に記入し、印(矢印の磁石)を付けることで進行段階が分かるようにする。



構造的な板書とノート指導



振り返りの設定



全員がカードを持つことで誰もが参加できるようにする。

和語：緑 / 漢語：黄 / 外来語：青 / 混種語：赤



目標を明確にもち、自ら学び表現する力を身に付けるための工夫



【実践した主な8つの取組】 見通しをもたせる導入・ICT機器の活用

- 学校名 金井中学校 授業者 教諭 小熊 翔子
 ■ 教科 社会科（地理的分野） 単元名 日本の諸地域
 ■ 学年 第2学年

単元の目標

- 【知識及び技能】・教科書や書籍、インターネットから調べた知識を活用できる。
 【思考力、判断力、表現力等】・スライドや模造紙を用いて調べたことや考えを分かりやすくまとめることができる。
 【学びに向かう力、人間性等】・個々で一生懸命調べ、グループで協力して発表できる。

時数	主なねらい
1 2 3 4	1時 スライドで単元の目的と学習計画を確認させ、明確な見通しをもつ。 地域ごとにグループ分けを行う。 2 3 4時 Chromebook、図書室を利用し、各担当地域の調べ学習を行う。 主体的に学び、表現する方法を考える。 表現ツールとしてスライドか模造紙をグループごとに作成する。
5	グループで協力して発表を行う。生徒はグループの発表の評価を行い、担当グループにフィードバックする。
6	講義とワークシートにより教科書から各地域の基礎的基本的な知識の追学習を行い、理解を深める。
7	学習全体を振り返り、ワークに取り組むことで理解度を確認する。 学習のまとめとして、各地域の特徴を自分の言葉でまとめる。

【実践について】

めあて

ICT、書籍を利用し調べ学習を行い、主体的に学び、表現する方法を考え、まとめる。

(○学習活動 ・ 生徒の反応
☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】)

○見通しをもつ。

☆スライドで単元のカリキュラム (①オリエンテーション・グループ分け②発表準備③講義④ワークとまとめ) の流れを確認する。
・オリエンテーションではグループ分けでは何を調べようか、と楽しそうに話し合っていた。
・いつまでに、何をするかスライドを見ながらしっかりメモをとっていた。
・どのように調べたらいいのか、クイズ形式にしてもよいか、など活発に意見や質問が出ていた。

○生徒用クロムと図書室を使用し、主体的に情報収集を行う。

☆調べ物が苦手な生徒には適したサイトや適した書籍を助言する。
☆模造紙にまとめる際には必要な図や資料をコピーする。
・「どの本が適しているのか」「どこを見たらよいか」など積極的に先生や友達に質問していた。
・ICT機器の使用方法が長けている生徒が苦手な生徒に教える場面もあった。

◇【態：揭示物・発表】

◇【思・判・表：揭示物・発表】

○調べた知識や情報を活用し、揭示物にわかりやすくまとめる。

☆スライドによる表現方法や、どのようなテーマがよいかを助言する。
・スライドの機能を自ら発見し活用するなど工夫していた。

◇【思・判・表：揭示物・発表】

【生徒の変容】

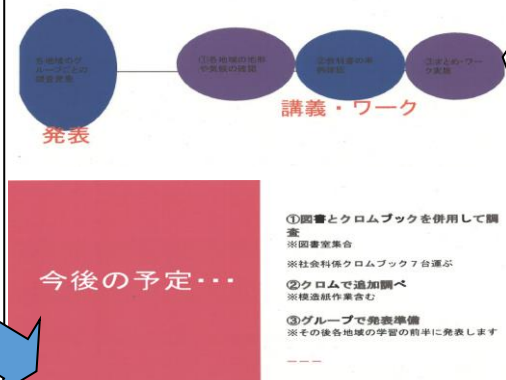
- ◎第2時から第4時の調べ学習において ICT 機器を1人1台使用することでしっかり調べようとする個々の責任感が高まった。
- ◎スライドを作成することで相手に伝わりやすいプレゼンテーションを創意工夫することができた。
- ◎授業の流れを理解し、見通しをもって準備することができた。

見通しをもたせる導入



スライドにより単元の授業の見通しをもたせてから、グループ分けを行う。

授業のすすめかた (各地域の最初にグループ発表→授業・教科書の内容)

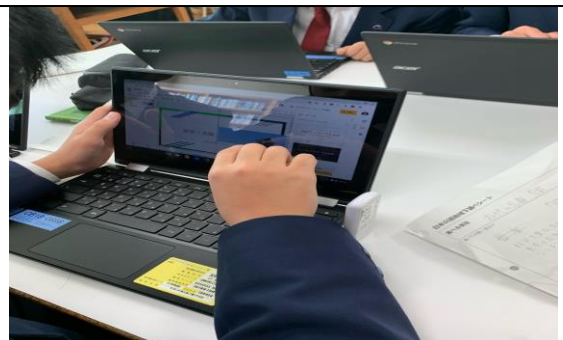


導入で使用したスライド
←・単元の学習が各時の完結ではなく7時間の学習につながりがあることを意識させる。
・いつまでに何をするか見通しをもたせることができるよう工夫した。

ICT機器の活用



↑図書室にて、クロムや本で調べ学習開始
↓個々の情報スキルにより差が生じる。
その際は教員が机間指導に入り個々に対応。





学習内容の理解を深める工夫



【実践した主な8つの取組】

ICT機器の活用・構造的な板書とノート指導

- 学校名 真光寺中学校 授業者 主幹教諭 嶋村 庄太
- 教科 数学科 単元名 一次関数
- 学年 第2学年

単元の目標

【知識・技能】・一次関数の関係を理解できる。

【思考力・判断力・表現力等】・一次関数の関係を表、式、グラフと相互に関連付けて表現できる。

【学びに向かう力、人間性等】・一次関数で学んだことを学習、生活に利用しようとすることができる。

時数	主なねらい
1 2	一次関数の意味を理解し、その関係を式で表すことができる。
3	変化の割合は一定で a に等しいことを理解する。
4 5 6	一次関数のグラフをかき、傾き、切片の意味を捉えることができる。
7	一次関数の表、式、グラフの関係をアニメーションを用いて理解を深める。
8 9	与えられた条件から一次関数の式を求めることができる。

【実践について】

めあて

一次関数の表、式、グラフの関係の理解を深める。

(○学習活動 ・ 生徒の反応

☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】)

○前時までの復習をする。

- ・一次関数の表から式の表し方を習った。
- ・表からグラフもかける。

☆ノートで確認するように伝える。

◇【態：発言や姿勢を観察】

○一次関数の関係性を説明する。

→生徒はその場で指名

- ・「〇〇くんと昨日の放課後に打ち合わせしたのですか？」 → 「していませんよ。」

☆説明役の生徒は黒板横へ移動させる。

- ・「傾きはグラフのときに使われる用語です。」
- ・「式の a と b の値を変化させるとそれにもなつて表、グラフが変化します。」

☆教科書内のデジタルコンテンツ「東書 d マーク」検索(*1)し、プロジェクターにて映しておく。傾き、切片の値を変更しながら説明するように伝える。

☆ノートへの写し方(*2)は、ルールを決めて定着を図る。

◇【思・判・表：生徒同士の対話、発言】

○学習の振り返りをする。

- ・アニメーションですごく分かりやすかった。
- ・一次関数の関係性が理解できた。
- ・その場で説明できる〇〇くんに拍手。

☆一次関数の今までの学習を振り返らせて、今日の一時間で既習内容が繋がったか確認する。

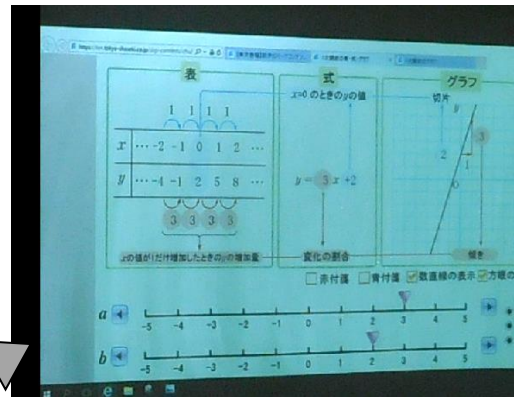
◇【知・技：発言、感想カード】

【生徒の変容】

◎表、式、グラフの関係を1つに結びつけることができた。アニメーションを用いることで、生徒の興味が持続し、集中していた。

◎傾き、切片の数値を変えると表、式、グラフがどう変わるかを視覚的に捉え、互いに説明することができた。

ICT機器の活用

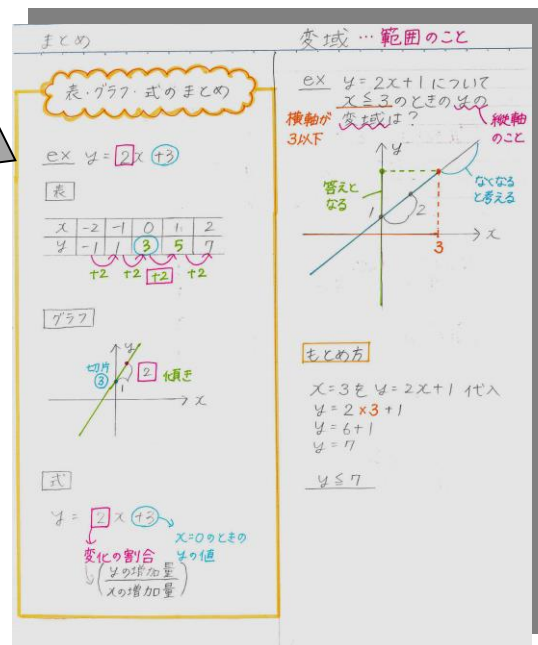


- ・映像を使つての説明は、生徒自身がPCの操作を行い、生徒同士で質問、意見を伝え合つた。

*1 デジタルコンテンツ「東書 d マーク」

ログインや会員登録をしなくてもインターネットが繋がる環境なら誰でも利用できる。何も準備する必要がなく、その場で値の変更もできる。

構造的な板書とノート指導



*2 ノート作りのルール

- ① 1 ページを半分に分けること。
- ② プリントは、その場で貼ること。
- ③ 学期に数回提出し、チェックを受けること。



興味・関心をもって授業に参加できる

授業展開の工夫



【実践した主な8つの取組】

見通しをもたせる導入・発問の工夫・思考ツールの活用・振り返りの設定

■ 学校名 町田第一中学校 授業者 主任教諭 安本 典生

■ 教科 理科 単元名 身近な物理現象

■ 学年 第1学年

単元の目標

【知識及び技能】・光に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、光の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けることができる。

【思考力、判断力、表現力等】・光について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、光の性質の規則性や関係性を見出して表現ができる。

【学びに向かう力、人間性等】・光に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとすることができる。

時数	主なねらい
1	光が進む様子を観察し、光が直進することや光源から出た光が目が届くことで見えることを見いだして理解する。
2	光の反射の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射するときの規則性を見いだして理解する。
3	光の屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で屈折するときの規則性を見いだして理解する。
4	凸レンズの働きについての実験を行い、物体の位置と像のでき方との関係を見いだして理解する。
5	白色光はプリズムによって、いろいろな色の光に分かれることについて知る。
6	身近な現象を理科で学習した内容を活用して考える。

【実践について】

(○学習活動 ・ 生徒の反応 ☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】)

単元の導入

○単元の見通しと評価規準を確認する。

☆単元を見通した問いを考えさせる。

(例) ものが見えるとは？カメラの仕組みを説明してみよう。

☆小学校の既習事項を確認する。

(例) この単元で知っていること、関係するかなと思うことを記入しよう。

見通しをもたせる導入

第1時間目

めあて：

光が進む様子を観察し、光が直進することや光源から出た光が目が届くことで見えることを見いだして理解する。

○光は直進すること、光は金属等にあてると反射することを復習し、課題を確認する。

課題：白い紙に当たった光は反射するか？

○予想をノートに記入する。個人作業

☆「反射する」「反射しない」「分かりかねる」など、立場をはっきりさせて記入させる。

◇【思・判・表：ノート】

○意見共有を行う。ペアワーク等

☆相手に自分の考えがしっかり伝わるように工夫させる。

○クラスで討論を行う。クラス全体

☆予想分布をとり、「分かりかねる」、「少数意見」、「多数意見」の順番に発表させる。

○実験を行い、結果と分かったことをまとめる。

○『学習履歴 80』に取り組む。

◇【思・判・表：ワークシート】

【生徒の変容】(授業アンケートより)

◎課題に対する予想を考える授業は、自分が正しいと思っていることが実は間違っていることに気が付くことができる。

◎学習履歴 80 は、文章で短くまとめる力が身に付き、授業内容が定着して良い。

発問の工夫

☆発問は、生徒にとって身近であること、間違った理解をしそうな概念等を取り上げる。また、観察・実験の際は必ず予想を立てさせる。予想を考えることは、生徒の理科に対する関心・意欲を高め、既習事項や生活体験を基に予想を考える為、思考を伴う学習活動が期待できる。

学習履歴 80 Advance 単元: No.

年 組 番 氏名

課題・タイトル	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
FREE																				

『学習履歴 80』とは、その授業の内容を2文・80字程度でまとめる学習活動。理科の考察にも応用できると考えている。

課題・タイトル	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
FREE																				

振り返りの設定

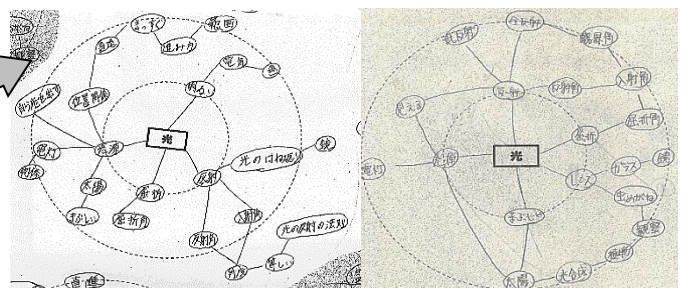
☆授業内で取り組むことができない場合は、家庭学習課題とする。次時の導入で、内容を確認することすることで、復習にもなる。

思考ツールの活用

単元のまとめ

○「光」に関するウェビングを行う。

☆学習した内容や考え方の関連を視覚的に表現させることにより、単元を体系的に理解させる。





すすんで科学的に探求しようとする工夫



【実践した主な8つの取組】 価値ある対話の共有・振り返りの設定

■ 学校名 鶴川中学校 授業者 教諭 佐藤 龍児

■ 教科 理科 単元名 化学変化とイオン

■ 学年 第3学年

単元の目標

【知識及び技能】・ 化学変化をイオンと関連付けながら、水溶液とイオン、化学変化と電池を理解できる。また、それらの実験などに関する技能を身に付けることができる。

【思考力、判断力、表現力等】・ イオンと関連付けて、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】・ 化学変化とイオンに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとすることができる。

時数	主なねらい
1	水溶液に電流が流れるか流れないか調べる。
2	水溶液に電流が流れるしくみを「イオン」で説明できる。
3 4	イオンはどのようにしてできるか説明できる。
5	イオンをイオン式で表すことができる。
6 7	塩酸の電気分解をイオンで説明できる。
8 9	塩化銅水溶液の電気分解をイオンで説明できる。

【実践について】

めあて

イオンはどのようにしてできるか説明できる。

(○学習活動 ・ 生徒の反応

☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】)

○ 学習の見通しをもつ。

☆ 本時の目標の確認し、理科ポートフォリオに記入させる。

○ イオンについての基本的な概念を理解する。

☆ 前時でナトリウムは陽イオンになり塩素は陰イオンになることを学習しているが、その規則性について周期表を用いて理解させる。
☆ 原子のつくりに着目し、原子が電子を失ったり受け取ったりすると陽イオンや陰イオンになることについて、自分の考えを導いたりまとめたりできるように支援する。

○ 隣の席の生徒にイオンはどのようにしてできるか説明する。

☆ 隣の人の説明で理解することができたら、その人の理科カルテカードに赤色の“OK!”スタンプを押す。理解できなかった場合は青色の“うーん…”スタンプを押すように指示する。(このとき聞き手の生徒は、本時の内容を履修する前の状態としている。)
☆ 青色のスタンプだった生徒も何度でも挑戦できるようにスタンプのインクはこすると消えるものを使用している。

◇【態：カード(理科カルテ)】

○ 振り返り。

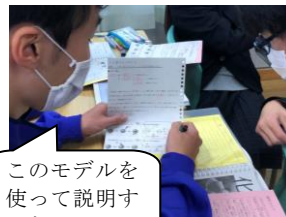
☆ 本時の目標を達成する事ができたか自分なりに振り返り、理科ポートフォリオに記入させる。

◇【態：カード(理科ポートフォリオ)】

【生徒の変容】

- ◎ 陽イオンと陰イオンを覚え込むのではなく、イオンのでき方を理解することで周期表の規則的な並びに気付くことができた。
- ◎ 友達に自分の説明が伝わるように、言い方を変えたり具体的に例えたりしたことで、生徒の理解が深まった。
- ◎ 既習事項のつながりを実感することで、自分なりの考えを創り出したり友達の考えと比較したりすることに意欲的になった。

価値ある対話の共有



このモデルを使って説明する〜



ここがよくわからない…

- ・ 自分が上手に説明できないところは、自分自身よく分かっていない部分ということに気付くことができた。
- ・ 友達が自分に理解できるように説明してくれるので、分からないところは何度でも「何で?」「どうして?」などと気軽に聞くことができた。

理科カルテ

3年 組 番 氏名

自分ができるようになったこと

項目	チェック	説明
周期表の20番まで暗記できた	●	イオンのでき方について説明できる
イオンをイオン式で表すことができる	●	塩酸の電気分解をイオンで説明できる
塩化銅水溶液の電気分解をイオンで説明できる	●	電池のしくみについて説明できる
酸性・アルカリ性の正体を知ることができた	●	説明できる
安全に観察、実験するように予習を行った	●	観察、実験の【結果】と【考察】を工夫してまとめた
小テストに向けて自宅学習を進めることができた	●	定期考査に向けて自宅学習を進めることができた
授業中、積極的に発言することができた	●	課題を期限内に全て提出することができた

この単元を学んで将来に生かせそうなこと

赤色の“OK!”スタンプ

青色の“うーん…”スタンプ

振り返りの設定

理科ポートフォリオ

3年 組 番 氏名

自分の学習に対して計画的に見通しをもちながら進めていくための【自己評価シート】
また、授業の中で身に付けさせたい力が授業の目標になっています。
一つの授業を通じて、ねばり強い努力の積み重ねが自分の成長につながります。
まずきき手な内容を振り返りにも活用してください。

日数	目標	目標達成するために努力できた	目標達成することができた	授業中に
1	11 水溶液で電気が流れる仕組みを説明できる。	● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ●	水溶液で電気が流れる仕組みを説明できた。
2	12 イオンが電気を運ぶ仕組みを説明できる。	● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ●	イオンが電気を運ぶ仕組みを説明できた。
3	13 イオンが電気を運ぶ仕組みを説明できる。	● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ●	イオンが電気を運ぶ仕組みを説明できた。
4	14 イオンが電気を運ぶ仕組みを説明できる。	● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ●	イオンが電気を運ぶ仕組みを説明できた。
5	15 イオンが電気を運ぶ仕組みを説明できる。	● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ●	イオンが電気を運ぶ仕組みを説明できた。
6	16 イオンが電気を運ぶ仕組みを説明できる。	● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ●	イオンが電気を運ぶ仕組みを説明できた。
7	17 イオンが電気を運ぶ仕組みを説明できる。	● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ●	イオンが電気を運ぶ仕組みを説明できた。
8	18 イオンが電気を運ぶ仕組みを説明できる。	● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ●	イオンが電気を運ぶ仕組みを説明できた。
9	19 イオンが電気を運ぶ仕組みを説明できる。	● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ●	イオンが電気を運ぶ仕組みを説明できた。
10	20 イオンが電気を運ぶ仕組みを説明できる。	● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ●	イオンが電気を運ぶ仕組みを説明できた。

※ 上記の①～⑩は「よくできた」「できた」「どちらでもない」「できなかった」「よくできなかった」です。

☆ 毎授業のはじめと終わりに記入し、学習したことが積み上げられていることを実感させる。また、生徒の理解度を見取る材料にもする。

- ・ 今日の授業で分かったことや身に付いた力が実感しやすい。

5 指導教諭の授業実践事例【小学校】



見方・考え方を共有するための工夫



【実践した主な8つの取組】

ICT機器の活用・価値ある対話の共有

- 学校名 小山小学校 授業者 指導教諭 福島 由歩
- 教科 図画工作科 単元名 筆あと研究所
- 学年 第6学年

単元の目標

- 【知識及び技能】・ 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解することができる。
- 【思考力、判断力、表現力等】・ 親しみのある美術作品を鑑賞する活動を通して、その造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めることができる。
- ・ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつことができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】・ 主体的に鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を創造しようとすることができる。

時数	主なねらい
1 2	「国立西洋美術館」のサイトから、自分のお気に入りの美術作品を選び、そのよさや美しさを味わうとともに、友達の感じたことや考えたことにコメントすることを通して、自分の見方や感じ方を深める。

○「Google Arts & Culture」について

Google アプリの一つで、世界中の文化遺産をオンラインで紹介することを目的につくられたものです。世界中の2000以上の美術館や博物館を無料で楽しむことができます。

今回の授業では、児童が実物を見に行く機会がもてるよう、上野の国立西洋美術館のサイトから作品を選んでもらいましたが、「現在地から近い」「作家の名前」「主に使われている色」などで美術作品や美術館を検索することも可能です。

他にも塗り絵やパズルなどもあり、大人も子供も楽しめるものとなっています。



【実践について】

めあて

国立西洋美術館にある作品の中から、
自分のお気に入りを見付けよう！

(○学習活動 ・ 児童の反応

☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】)

○今日のめあてと学習の流れをスライドで確認する。

○スライドを見て、スクリーンショットと、コピー&ペースト、トリミングの方法を知る。

☆児童が編集するスライドに説明の画面を入れておくことで、いつでも操作方法を確認できるようにする。必要な操作を黒板に投影しておき、今行う活動の確認ができるようにする。

○「Google Arts & Culture」の国立西洋美術館のサイトから、お気に入りの作品を選び、そのよさや美しさをスライドに入力する。

☆児童分のスライドを用意しておき、自分の出席番号のスライドを編集するように伝える。

- ・手前と奥で明るさに違いがある。
- ・白波の白が、他の白と違う色なのがいい。
- ・海の波にオレンジ色が入ることで、夕方なの分かる。

◇【知・技：スライドの内容】

◇【思・判・表：スライドの内容】

○友達のお気に入りの作品を見て、感じたことや考えたことをコメントに入力する。

☆コメントには児童の名前が載らないので、最後に名前を書くように伝える。

- ・人だけでなく、空にも注目しているのいいね。
- ・波の迫力がすごいね。
- ・夕焼けの感じ、私もいいと思った。

○活動を通して感じたことや考えたことを振り返り、スライドに入力する。

◇【思・判・表：スライドの内容】

【児童の変容】

○国立西洋美術館のコレクションの中からお気に入りの作品を選ぶことで、多様な作品のよさを感じることができた。

○コメント機能を活用することで、友達の選んだ作品のよさを味わうとともに、友達の見方・感じ方に触れ、自分の見方・感じ方を深めることができた。

○国立西洋美術館の作品を鑑賞することで、「上野に本物を見に行きたい」と、学びを生活につなげる児童の姿が見られた。

ICT機器の活用

今日の活動

- ・「GoogleArt&Culture」を使って、自分のお気に入りのアートを見つけよう。
- ・お気に入りのアートを見つけたら、「コピー&ペースト」をして、ワークシートに作品をはりましょう。
- ・お気に入りのポイントを、色や形に注目して書きましょう。
- ・今日の活動を通して、発見したことや考えたことを書きましょう。

見通しがもてるよう、学習の流れをスライドで表示する。

お気に入りの見つかったら、
④ 虫眼鏡をクリックして、スクリーンショットをとります。
Ctrl キーを押す。クリップボードにコピーをクリック。

このスライドの自分の出席番号の画面に貼ります。

題名と作者の名前も、コピーしてペーストできます。



編集するスライドに操作方法を載せておくことで、いつでも確認できるようにする。

価値ある対話の共有



友達へコメントするときは、④ を押します。
名前を書くのを忘れずに！

コメント機能の活用

スピーカーノートに国立西洋美術館の URL を貼っておく。

コメント機能で、友達の選んだ作品のよさや、見方・感じ方のよさを伝える。



学習の振り返りをスライドに入力することで、共有しやすくする。



思考をはたらかせ、豊かに表現する 児童の育成を目指す指導の工夫



【実践した主な8つの取組】

見通しをもたせる導入・ICT機器の活用・振り返りの設定

- 学校名 忠生第三小学校 授業者 指導教諭 三原 愛子
- 教科 外国語活動 単元名 お店を開こう
- 学年 第4学年 (Let's Try! 2 Unit 7 What do you want?)

単元の目標

英語でお店を開くために、食材の言い方や欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむとともに、これまでに学習したことも用いながら交流する。

時数	主なねらい
1	学習の見通しをもつ
2	食材の言い方に慣れ親しみ、何のお店にするか考える。
3	欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しみ、お店の準備をする。
4	お店を開き、欲しいものを積極的に尋ねたり答えたりする。

【実践について】

めあて
学習の見通しをもつ。

(○学習活動 ・ 児童の反応
☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】)

○ 【Let's Watch & Think】

映像を見て、世界の市場と日本の市場を
比べる。

- ・ボートがお店になっているの？
- ・スイカが大きい！

☆児童が本単元の内容に円滑に入れるように
する。

○ **【Warming up】**

「ピザ屋へ行こう」

「ジュースバーへ行こう」

- ・楽しそう。
- ・私もやってみたいな。
- ・〇〇屋さんを開いてみたいな。

☆デジタル教材を活用し、児童が単元のゴールイメージをもてるようにする。

○ **【Practice】**

「みんなが食べたいパフェ」

「ALTの先生が食べたいパフェ」

☆食べたいパフェの食材を伝えたり聞いたり
 することを通して、欲しいものを尋ねたり
 答えたりする表現を練習する。

○ **【Activity】**

「オリジナルパフェを作ろう」

☆本時で使った言語材料に加え、既出の言語材料を使ってよいことを伝え、児童が知っている語句や表現を整理できるようにする。

○学習計画を立てる。

☆本単元や既出の言語材料を使って、児童が
やってみたいと思うことを引き出す。

○ 【Looking Back】

振り返りカードを書く。

- ・ ○○屋さんをやってみたいです。
- ・ 野菜や果物の言い方はもう分かるから、英語で会話ができるようになりたいです。

☆振り返りカードの書き方や書く視点をしっかりと伝え、児童が次時のめあてを明確にもてるようにする。

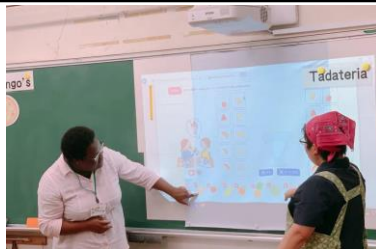
◇第1時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。

【児童の変容】

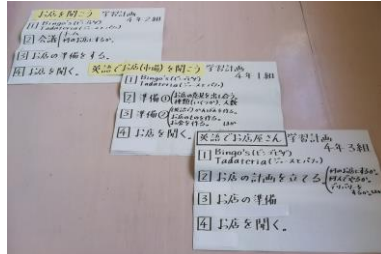
◎児童と目的を共有し、学習計画を共に立て、児童の思いを取り入れた学習を行ったことで、児童が主体的に学ぶことにつながった。

◎見通しをもたせた振り返りカードを活用したことで、児童の英語表現の幅が広がった。

見通しをもたせる導入 ICT機器の活用



- ・児童が場に応じた表現を選択し、主体的にコミュニケーションを図ることを目指し、本単元では、「英語でお店を開く」という言語活動を設定することにした。単元の導入の段階で、指導者が既出の言語材料を使ってお店を開き、児童が単元のゴールイメージをもてるようにする。A L T がお客さん役で徐々に児童を巻き込んでいく。児童と一緒に楽しく取り組むことが大切。



・学級全体で「お店の条件」（本単元の言語材料と既出の果物、野菜、数などを扱うこと）を共有し、残り3時間の学習計画を児童と共に立てる。なぜこの（お店を開く）活動を行うのか、児童と目的を共有することがとても大切。

振り返りの設定

[illegible]

- ・振り返りを通して、児童が自身の学びや変容を自覚できるようにすることが大切。週1時間の外国語活動では、振り返りカードを1枚にし、学習の足跡が見えるようにするとよい。児童が次時や単元のゴールに向かってめあてをもつ手助けとなるようにする。



児童が思考を働かせる活動の工夫



【実践した主な8つの取組】 価値ある対話の共有

- 学校名 小山中央小学校 授業者 指導教諭 牧田 莉加
- 教科 外国語科 単元名 Lesson4 I am hungry. 様子や特徴
- 学年 第6学年

単元の目標

学校の思い出について、自分が伝えたいことをすすんで表現できるようになるために、話の概要をとらえながら、様子や特徴を表す語句や表現を聞き取ったり、簡単な語句や表現を使って、話したり、書き写したりすることができる。

時数	主なねらい
1 2	いろいろな形容詞に慣れ親しみ、それぞれの言葉の意味を理解する。
3 4	対比の表現をよく聞き、話題の概要を捉えながら聞いたり、読んだりする。
5 6	形容詞を使って、動物の特徴を表現する。

【実践について】

めあて

動物クイズをよく聞いて、何の動物の赤ちゃんかを答えることができる。

(○学習活動 ・ 児童の反応)

☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】

○あいさつ

○今日の学習のめあて

☆動物の特徴を表す英語は、どんなものがあったかを振り返り、今日の学習に見通しをもって始められるようにする。

(have, like, can, country, size)

○復習

○アクションゲーム

☆ジェスチャーを入れて、意味理解を助ける。

(long/short, big/small, fast/slow, heavy/light)

○チャレンジ1

○動物クイズ (全体)

☆児童から出てくるであろう動物の写真を準備しておく。

☆3ヒントで動物の特徴を伝え、児童との価値ある対話を通して、児童の思考を揺さぶる。

◇【態：発言・行動観察】

◇【思・判・表：行動観察】

○チャレンジ2

○ワークシート (個別)

☆児童が動物の特徴を聞いて、音声と文字を結び付けながら読む体験ができるように、板書の仕方を工夫する。

◇【思・判・表：行動観察】

○ふりかえり

○あいさつ

【児童の変容】

◎聞いて分かる英語が増えた。

◎他の動物の名前や特徴を自分で調べてみたいと興味を広げることができた。

◎自分で英語を読むことができる喜びを感じ、もっと読んでみたくなったと英語に対する興味関心が高まった。

価値ある対話の共有

～具体的な事例～

<事例1>

○形容詞の語句の意味理解を深める
(反対言葉のマッチング)

- ・ゲームをしながら学べて楽しい。
- ・大きな数も言えるようになったよ。



<事例2>

○多様な学びを深める工夫と他教科との関連付け (動物の赤ちゃんクイズ)

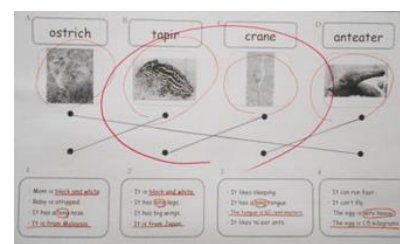
- ・動物の名前だけではなく、重さや大きさ、長さや国名など、新しいことをたくさん知ることができた。
- ・1年生で学習した国語「どうぶつの赤ちゃん」を思い出したよ。



<事例3>

○読むことへのアプローチ

(音声と文字を結び付けるワークシート)



<事例4>

○リアリティを体験し、知識を深める
(ダチョウの卵の重さと大きさ)

1.5kgの重さを体感！
「結構、重い〜！」と驚いていました。





課題について考えよう、話し合おうとする 意欲を高めるための工夫



【実践した主な8つの取組】 見通しをもたせる導入の工夫・ICT機器の活用

- 学校名 金井小学校 授業者 指導教諭 佐藤 寛子
- 教科 特別の教科 道徳 教材名 「うばわれた自由」(私たちの道徳 小学校5・6年)
- 学年 第5学年

ねらいとする道徳的価値について【A 善悪の判断、自律、自由と責任】

人は、自分の意志を尊重し、自由を求め、おおらかに生きていきたいと考えている。自由だからこそ、自分で判断することができ、自分で行動することもできる。何物にもとらわれない自由な考えや行動は、自主性を生み、自立心を高めていくのである。

しかし、自由を求めた行動は、時として他者の気持ちを考えられず、人に迷惑をかけ、集団への悪い影響につながる場合がある。人として成長していくためには、したいことをしたいがままに行動するだけでなく、自分の自由な意志を律し、責任を伴うことを自覚した上で、自由を生かした行動をすることが大切である。

児童には、自由な考えや行動のもつ意味やよさに気付き、自律的に行動しようとする態度を育てたい。

教科等	ねらいとする道徳的価値に関わる指導及び児童の実態
学校行事	◇川上村移動教室の取組 集団での宿泊生活に関わる事前学習において、「自分勝手な言動が集団生活全体に影響があること」と自律した生活に向けて指導した。 ・「自由とはいえ時間は守る」など、自律ある生活をしようとする姿が見られた。
体育科	◇体育「表現運動」 グループ練習の時間を取り、リーダーを中心に自由に練習する時間を設けている。練習に取り組まず、自分勝手に行動する児童に対しては、グループ全体に関わることを意識できるよう児童のグループ全体に指導した。 ・自主的、自律的に行動しようとする児童が増えている。

時数	主なねらい
1	「本当の自由を大切に生きてまいりましょう」というガリユーの言葉を聞いたジェラル王の思いを考えることで、自由を大切にし、自律的で責任ある行動しようとする態度を育てる。

【実践について】

めあて

「本当の自由を大切にして生きてまいりましょう」というガリユーの言葉を聞いたジェラール王の気持ちを考えよう。

(○学習活動 ・ 児童の反応

☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】)

○事前アンケートを通して「自由」を意識する。

導入場面で児童が描いた「自由」についての絵を見てどのような自由を求めているか意識する。

- ・宿題がなくて、楽な生活をしている自由
- ・好きなものを、好きなだけ食べられる自由
- ・ずっとゲームや遊びができる自由

☆事前に描いた児童の絵をスライドで紹介し、「自由」についての感じ方考え方を共有させる。

数名の児童の絵を紹介し、「自由」について共有することで、自分の意志で思うがままに行動できる自由を感じさせる。授業では、自分の意志のままに行動することが及ぼす影響を理解させ、児童が「本当の自由」について主体的に考えられるよう展開していく。

○スライドショーによる教材提示で教材理解を深める。

スライドショーに注目しながら、教師の範読をじっくり聞くことで臨場感をもち、登場人物に迫体験して教材の内容を捉える。

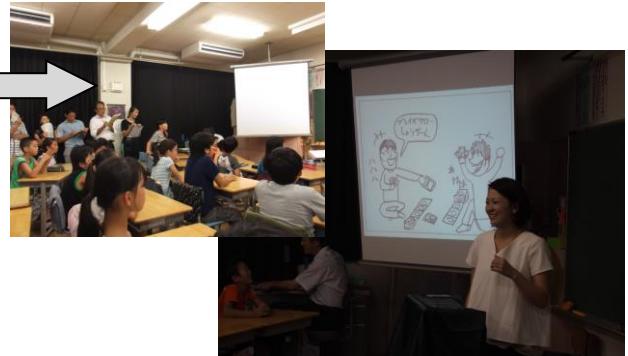
☆教材の内容を捉えさせ、「自由」についてじっくり考えさせる。

音楽等を効果的に使用し、じっくり教材を読み聞かせる。範読後に余韻をもたせ、板書に登場人物の絵を提示することで、教材の内容で重要な場면을印象付け、展開場面で、登場人物を通して、自分勝手な行動ではなく、よく考え、判断し、自律的に行動することの大切さに気付かせる。

【児童の変容】

◎導入場面で、児童が「自由」について考えようとする意欲を高めることができた。また。映像による教材提示を通して、展開での「本当の自由」についての話合いの充実につながった。「周りの人のことを考えてこそ、自由になれるのではないか」という児童の発言から話合いが深まった。

見通しをもたせる導入の工夫



- ・スライドで児童の絵を紹介し、「どのような自由でしょうか」と問うことで、自由についての考えを発表し合うことができる。
- ・「きまりやルールがない自由」「自分の好きなように行動できる自由」を求めていることを共有することができる。

I C T 機器の活用



- ・電子紙芝居で児童に語り聞かせることで、教材の内容理解が深まり、登場人物の気持ちに共感して発言することができる。また、問題点が浮き彫りになり、児童の「考えたい」「みんなの意見が聞きたい」という思いを膨らませる。

6 指導教諭の授業実践事例【中学校】



企業づくりを通して、主体的に学ぶ授業の工夫



【実践した主な8つの取組】 見通しを持たせる導入・価値ある対話の共有

- 学校名 町田第三中学校 授業者 指導教諭 島田 一郎
- 教科 社会科（公民的分野） 単元名 私たちの暮らしと経済
- 学年 第3学年

単元の目標

- 【知識及び技能】・企業の経済活動に関する諸問題や金融の働きなどに興味をもち意欲的にとともに様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けることができる。
- 【思考力、判断力、表現力等】・ポスターセッションを通して、多面的・多角的に考察したり、表現したりすることができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】・グループで協力し合いながら会社をつくることを通して、企業の役割や社会的責任を学び、主体的に追求、解決しようとするすることができる。

時数	主なねらい
1 2 3	ミスターXからの挑戦状を視聴し、会社づくりのコンセプトを知り、どのような会社をつくればいいのか話し合い、計画を立てる。
4 5	ポスターの作成をする。（会社説明用と求人広告用）
6 7	各会社を発表して、評価し合う。
8 9	自分たちでつくった会社を再評価する。
10	学習全体を振り返り、企業の役割や社会的責任、金融の働き、勤労の権利と義務、経済活動の意義や市場経済の基本的な考え方についてレポートを提出する。

【実践について】

めあて

ミスターXからの挑戦状を使用し、学習全体の見通しを立てる。

(○学習活動 ・ 生徒の反応

☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】)

○第1の挑戦状「魅力ある会社を企画せよ」

会社の目的と役割・お仕事図鑑・さまざまな社会貢献活動などを学習する。

○第2の挑戦状「会社を興すための資金調達せよ」

直接金融と間接金融・株式会社のしくみ・株式市場の役割などを学習する。

○第3の挑戦状「経済の動きを見極めよ」

会社と経済・外国為替・株価の変動と為替などの学習をする。

☆右写真の緑のワークブックと青のワークシートDVDを使用して、経済学習全体の導入として見通しをもたせる。

○緑のワークブックに従い、青のワークシートに記入し、班員の役割分担や会社企画シート、チェックシートなどを完成し、班員の意見をまとめる。

◇【知・技：ワークシートの記述・発言】

○ミスターXからの挑戦状の学習を基に、各班で、会社の説明用ポスターと求人広告を作成する。

☆会社名、キャッチフレーズ、ロゴマーク業種、事業内容、社会的責任などを記入させる。

☆求人募集年齢、所在地、賃金、勤務時間、待遇、仕事内容、などを記入させる。

☆発表を聞いて、どの会社には自分は投資したいのかを、100万円の投資カードを渡して、プレゼンテーションシートに貼らせる。

☆発表を聞いて、どの会社には自分は就職したいのかを、緑色のドットシールで貼らせる。

○それぞれの会社を比較し、自分が入社を希望する時の視点と、自分たちが作った会社の再評価をしてみる。

【生徒の変容】

◎社会科班を編制することにより、意欲的に作業に参加していた。特にリーダーが中心になり、周囲の生徒に良い影響を与えていた。

◎入社を希望するときの視点や、会社の社会的な責任、企業メセナ、環境への貢献度などを示すことで、ただ利益だけを追求する会社ではなく、持続可能な社会を考えていた。

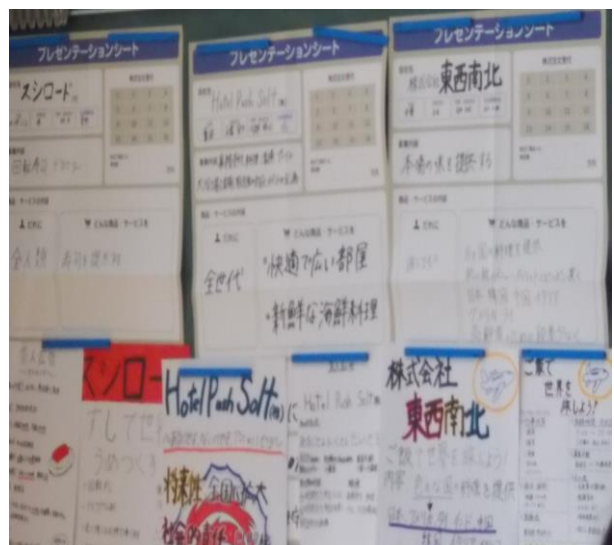
見通しをもたせる導入の工夫



- ・経済単元の学習は、非常に難しく捉えがちで、DVDなどによる解説がないと、なかなか学習がスムーズに進まないが、この教材はそれらを補ってくれた。

価値ある対話の共有

- ・発表時間を3分間ずつに設定し、質問時間は1分間としたことで、スムーズな進行ができた。また、シールを貼ることで、各会社への投資と入社希望の比較が明確になり、なぜその会社には多くの投資がなされ、また、多くの社員が入社希望をしているのか、後から振り返って、再評価する良い資料となった。





色彩による表現を気軽に楽しむための工夫



【実践した主な8つの取組】

ICT機器の活用

- 学校名 南大谷中学校 授業者 指導教諭 鍋木 啓之
- 教科 美術科 単元名 人物クロッキーとその淡彩表現
- 学年 第1学年

単元の目標

- 【知識及び技能】・ 短い時間で水彩絵の具で彩色できる。
- 【思考力、判断力、表現力等】・ 『にじみ』や『ゆらぎ』などの淡彩着色の時に現れる表現を楽しむことができる。
- ・ 自他の作品の良さに気付くことができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】・ 淡彩による表現の可能性に気付き、今後も表現活動に取り入れていこうとすることができる。

時数	主なねらい
1	野菜よく観察して、鉛筆でスケッチをする。 野菜の特徴をとらえ、写実的に描くようにする。
2	友達をモデルに、5分間で鉛筆クロッキーを行う。 目や鼻の形よりも、大きな塊、動勢をつかむように心がける。 友達の特徴をのびのびと大きく描くように心がける。
3	短い時間で野菜のスケッチ、人物クロッキーに淡彩で着色を行う。

【実践について】

めあて

短い時間でやる淡彩着色表現のよさを感じよう。

（○学習活動 ・生徒の反応

☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】）

○1時間目に描いた野菜のスケッチに淡彩で着色する。

☆テレビ画面及び大型提示装置に拡大投影機で、淡彩着色のやり方を実演する。

☆赤・青・黄色の三原色のみを使う。

☆水をたっぷり筆に含ませて描く。

☆時間は3分～5分で素早く着色をする。

☆日本の伝統的な水墨画の技法や日本画の『たらしこみ』技法の紹介をする。

☆その時に現れる『濃淡』や『にじみ』『ゆらぎ』のよさに気付くようにする。

・色と色がにじんでいいんだよ。そのにじみがきれいに見えるよ。

・自然にできる濃淡がきれいだよ。

参考資料

（尾形 光琳 作品）

（いわさ きちひろ 作品）

（星野 富弘 作品）

◇【知・技：野菜の着色作品】

○目の前の友達をモデルに5分交代でクロッキーを行う。

☆モデルの特徴をつかみ、大きくのびのびと描く。

☆細かい部分よりも、大きな動勢を表現する。

・短い時間で集中して描くとスピード感のある線ができるね。

○人物クロッキーに淡彩で着色をしていく。

◇【知・技：野菜の着色作品】

○テレビ画面及び大型提示装置に拡大投影機で生徒の作品を映し、それぞれのよに気付く。

◇【知・技：人物クロッキーの着色作品】

◇【態：発言】

【児童・生徒の変容】

◎淡彩表現のすることで色を怖がらずに、思い切って制作することができていた。

◎にじみや濃淡のよさに気が付き、楽しく色をつけている姿が見られた。

◎絵手紙など、手で描き色を入れる豊かな表現が自分にも出来ることに気付いてくれた。

ICT機器の活用

素早く色を付けることがこつ！



色の三原色を使い混ぜることで自然な色彩を出すことが出来るよ。



水をたっぷり使って『おつゆ』みたいな状態で着色！

色がにじんでOKだよ
それがきれいなんだよ！





生徒が伝えたいことを主体的に英文で表現する



【実践した主な8つの取組】 **見通しをもたせる導入・思考ツールの活用**

■ 学校名 町田第一中学校 授業者 指導教諭 吉岡 順子

■ 教科 外国語科 単元名 Unit 6 オーストラリアの兄

■ 学年 第1学年

単元の目標

咲の兄(春樹)についての紹介文を読み、留学先での生活やオーストラリアの動物について話したり、たずねたりした後、自分の紹介したい人物について発表するために、適切な組み立てと表現で英文を書いて伝え合うことができる。

時数	主なねらい
1	友達や家族などについて紹介することができる。
2	有名な人物について、三単現の-s を用いて説明することができる
3	咲の兄(春樹)についてのスピーチを聞いたり、読んだりして内容をつかむ。
4	自分と相手以外の人についてたずねたり、答えたりすることができる。
5	春樹について、アレックスが質問する内容をつかむ。
6	自分と相手以外の人「...しない」ということを説明することができる。
7	咲とオーストラリア出身のベッキーの対話を聞いたり、読んだりして内容をつかむ。
8	人物について紹介する英文を発表し、友達の発表の内容をつかむ。

【実践について】

めあて

自分の紹介したい人物について、既習事項を用いて5つの英文で書き、人物当てクイズとして、グループやクラス全体で発表する。友達の発表内容をつかむ。

ポイント コミュニケーションを行う目的・場面・状況を明確に設定する。

(○学習活動 ・ 生徒の反応

☆指導、助言、支援 ◇評価【観点・方法】)

○Topic Chat(Movie)を行う**ペア**

Webbing⇒Chat⇒Share(思考の共有)⇒

[ペアを変えて] Chat⇒Reflection(振り返り)

○グレッタ・トゥンベリさんを紹介する英文を読み、doesn't の用法を復習し内容をつかむ。《同時代性》**クラス全体**

Does anyone know this girl? She is a high school student and an environmental activist. She comes from Sweden. She started a strike to call for stronger action on climate change. She doesn't eat meat. She doesn't use airplanes. She has a sister, but she doesn't have a brother.

○一人一人が、自分の紹介したい人物についての英文の発音を確認し、音読練習する。**個人**

☆生徒へ発音指導をする。

○グループごとに、人物あてクイズを行う。

○じゃんけんで最初の発表者を決め、時計回りで順に出題する。

○グループ内で一番おもしろいクイズを出した人を選ぶ。**4人グループ**

◇【思・判・表：行動観察・ワークシート】

ポイント 自分が伝えたいと思う内容を考えさせる。

○グループの代表者は、小ホワイトボードにクイズを記入する。

○前に出てクイズの発表を行う。クラス全体で、クイズに答える。班対抗で競う。

クラス全体

○振り返りを記入する。

【生徒の変容】

◎英語に苦手意識を持っている生徒も学びに参加し、自分が紹介したい人物について事前に調べて、英文で書き、グループで発表できた。

Personalizing(子どもと題材を結び付ける)が鍵

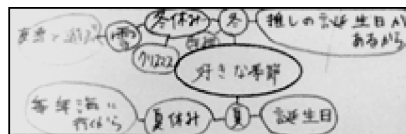
見通しをもたせる導入

- ・単元の見通しとゴールを導入時に伝え、様々なアクティビティを通してゴールイメージを例示していく。

Topic Chat Recording & Reflection Sheet

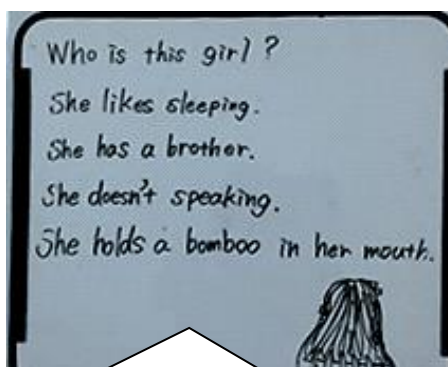
Date:	Today's Topic: Movie
自分で言えた英文: 10 "I like 映画。That's because it's interesting." 23 "Do you like movies? I see. Me too. How do you like movies?" "Do you like movies?" "What movie did you watch this summer?"	
★会話の継続 (A) B C ★アイコンタクト (A) B C ★相づち (A) B C ★English Only	

『生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導資料』令和2年都教育委員会 pp. 41-64 の Q&A 活動, Chat 活動の指導例参照。
このワークシートは、対話前1分間 webbing をした後 chat、自分で言えた英文を上段に書き、表現できなかった英文・友達が言えた英文を share し、ペアを変えて chat するよう少しアレンジしてある。



思考ツールの活用

ウェビングでアイディアをたくさん出し chat に活かしている。スピーチ原稿作成・ディベートなどの際にもウェビング brain storming をすることにより発想が豊かになる。ウェブを見てどのアイディアを英文にしていけるかを考える習慣をつけることが大切である。



Who is this girl? グループ代表者の例
She doesn't speak. が正しいが、文法的な誤りについてはそのままにしておき、「1カ所直すべきところがあります。何か気づくことはないですか?」と本人に問いかけ全体にも考えさせている。

学力向上推進委員会 編集委員

町田市立藤の台小学校	校 長	三好	浩一
町田市立町田第一中学校	校 長	花田	英樹
町田市立忠生第三小学校	副 校 長	大友	理恵子
町田市立真光寺中学校	副 校 長	川島	隆

町田市立本町田小学校	主幹教諭	秋場	栄美
町田市立鶴川第二小学校	指導教諭	市川	裕佳子
町田市立大蔵小学校	主任教諭	石井	靖
町田市立大蔵小学校	教 諭	町田	希
町田市立木曽境川小学校	主任教諭	林	義人
町田市立小山ヶ丘小学校	主任教諭	吉松	一弘
町田市立町田第一中学校	主任教諭	安本	典生
町田市立町田第三中学校	教 諭	中島	沙紀
町田市立南大谷中学校	主任教諭	新田	麻美
町田市立鶴川中学校	教 諭	佐藤	龍児
町田市立真光寺中学校	主幹教諭	嶋村	庄太
町田市立金井中学校	教 諭	小熊	翔子
町田市教育委員会	指導主事	高木	孝輔
町田市教育委員会	指導主事	新井	拓

実践事例提供協力者

町田市立金井小学校	指導教諭	佐藤	寛子
町田市立忠生第三小学校	指導教諭	三原	愛子
町田市立小山小学校	指導教諭	福嶋	由歩
町田市立小山中央小学校	指導教諭	牧田	莉加
町田市立町田第一中学校	指導教諭	吉岡	順子
町田市立町田第三中学校	指導教諭	島田	一郎
町田市立南大谷中学校	指導教諭	鏑木	啓之